

0001 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

機械室内の既設配管更新について、施工計画の記述として最も評価されるものはどれか。
ア．既設配管の系統と停止可能時間を事前確認し、停止区間を限定したうえで仮設バイパスを設け、復旧後に漏れ確認を行う。
イ．安全と品質に十分注意して施工する。
ウ．現場の状況に応じて適切に施工する。
エ．できるだけ短時間で工事を完了させる。

答え・解説 正答：ア

ア：対象・条件・措置・確認まで具体化され、施工計画として再現性がある。
イ：抽象的で、何をどう管理するか判定できない。
ウ：判断基準や具体的措置が示されていない。
エ：短時間化だけでは安全・品質・停止条件を管理できない。
総合解説：施工経験の記述では、対象設備、施工条件、採った措置、その理由や確認方法を具体的に示すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

営業中のテナントビルで給水管を更新する工事について、施工計画に最初に盛り込む内容として最も適切なものはどれか。
ア．材料を先に全量搬入し、その後で断水時間を確認する。
イ．使用時間帯、断水可能時間、既設バルブの有効性、入居者動線を調査し、施工可能区間と作業時間帯を決める。
ウ．既設図面があるため現地調査を省略する。
エ．工事開始後に利用者の苦情が出た場合だけ作業時間を見直す。

答え・解説 正答：イ

ア：施工条件確定前の全量搬入は保管・工程上の無駄を招き得る。
イ：施設運用条件を先に把握すると、断水・騒音・動線を施工手順へ反映できる。
ウ：既設図面と現況が一致するとは限らず、現地確認が必要である。
エ：事後対応では利用者影響と工程リスクを十分に抑えられない。
総合解説：施工計画は現場条件と施設運用を把握してから、工法・手順・時間帯・仮設を決定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

天井内でダクトと配管が交錯する改修工事の施工計画として最も適切なものはどれか。
ア．天井復旧を先行し、必要箇所だけ後から開口する。
イ．各工種が空いた場所から独立して施工し、干渉は完成時に調整する。
ウ．総合図や現地寸法で干渉を確認し、支持金物の施工、主要ダクト、配管、保温、天井復旧の順序を他工種と調整する。
エ．配管だけを先に施工し、ダクト側に迂回してもらう。

答え・解説 正答：ウ

ア：仕上げ先行は隠ぺい部の施工・検査を困難にする。
イ：独立施工は干渉や再施工の原因となる。
ウ：納まりと前後関係を施工前に調整することで手戻りを防げる。
エ：一方的な先行は全体最適にならず、他工種調整が必要である。
総合解説：複数設備が交錯する施工では、総合調整と合理的な前後関係を計画段階で決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

大型空調機を地下機械室へ搬入する場合の施工計画記述として最も適切なものはどれか。
ア．機器が現場に到着してから通路を測り、入らなければ現場で対応する。
イ．搬入経路はメーカーに任せ、施工者は据付位置だけ確認する。
ウ．重量だけ確認すれば、寸法や床荷重の確認は不要である。
エ．機器寸法・重量、搬入口と通路寸法、床荷重、揚重点、旋回余裕を確認し、必要なら分割搬入や仮設開口を計画する。

答え・解説 正答：エ

ア：到着後の確認では工程遅延や危険な場当たり対応につながる。
イ：施工者には現場条件を踏まえた搬入計画と安全確保が必要である。
ウ：寸法・床荷重・揚重点も搬入成立性に直結する。
エ：搬入可否と安全性を寸法・重量・経路・支持条件から事前に検証している。
総合解説：重量物搬入は、機器仕様と現場経路を照合して施工前に成立性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

- 病院の給湯系統を切り替える改修工事で、施工計画として優先すべき内容はどれか。
- ア．停止範囲と停止時間を関係者と合意し、仮設供給の要否、切替手順、復旧確認、緊急時の戻し手順を定める。
 - イ．仮設供給は費用がかかるため、用途に関係なく検討しない。
 - ウ．復旧確認は利用者から連絡があった場合にだけ行う。
 - エ．切替時間を短くするため、事前説明を省略して一斉に作業する。

答え・解説 正答：ア

- ア：継続使用施設では、停止影響と復旧失敗時まで含む切替計画が必要である。
- イ：重要系統では代替供給の必要性をリスクに応じて検討する。
- ウ：切替後は圧力・温度・漏れ・運転状態を能動的に確認する。
- エ：医療施設では利用者影響が大きく、事前調整を省略できない。
- 総合解説：停止を伴う改修は、関係者調整、代替措置、切替、復旧確認、異常時対応を一体で計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

- 配管施工図を作成した後に梁貫通位置の変更が判明した。施工計画上の対応として最も適切なものはどれか。
- ア．変更履歴を残さず最新版だけ差し替える。
 - イ．変更条件を関係図面へ反映し、他設備との干渉、支持方法、勾配、保守空間への影響を再確認して承認手続きを行う。
 - ウ．施工図は一度承認済みなので、現場だけで配管を曲げて対応する。
 - エ．梁を避けられることだけ確認し、保守空間は完成後に調整する。

答え・解説 正答：イ

- ア：履歴管理がないと誤施工や旧図使用の原因になる。
- イ：変更の影響範囲を再評価し、図書と現場を一致させる手順が適切である。
- ウ：承認図と異なる現場変更は品質・検査・維持管理上の問題となる。
- エ：納まり変更では保守性や性能条件まで再確認が必要である。
- 総合解説：施工条件変更時は、影響評価、関係者協議、図書改訂、最新版管理を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

狭い敷地で配管材料の搬入と高所作業車の使用が重なる場合、施工計画の記述として適切なものはどれか。

- ア．作業が短時間なら搬入車と高所作業車を同じ通路で同時使用する。
- イ．誘導員を配置すれば、作業区画の設定は不要である。
- ウ．搬入時間帯と高所作業車の使用時間を分離し、作業区画・誘導員・一時保管場所を定めて動線の交錯を避ける。
- エ．資材は通路に仮置きし、必要なときに作業員が移動させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：同時使用は接触・挟まれ・通行阻害のリスクを高める。
 - イ：誘導だけでなく物理的な区画や作業調整が必要である。
 - ウ：限られた空間では時間・場所の分離と動線管理を組み合わせることが有効である。
 - エ：通路仮置きは避難・搬送・安全動線を阻害する。
- 総合解説：施工計画は本設作業だけでなく、搬入・仮設・作業動線を含めた全体最適で組み立てる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

- 屋上で冷却塔配管を施工する期間に強風が予想される。施工計画として最も適切なものはどれか。
- ア．強風対策はクレーン作業だけに必要で、配管材の飛散は考慮しない。
 - イ．当日の朝に現場代理人が感覚で実施可否を決める。
 - ウ．工程優先のため、強風時も作業員が注意すれば継続する。
 - エ．気象情報を確認し、揚重・高所作業の中止基準と代替作業を事前に定め、資材の飛散防止も計画する。

答え・解説 正答：エ

- ア：長尺材や養生材などの飛散も公衆・作業員災害につながる。
 - イ：判断基準を事前に共有し、属人的な判断を避けることが重要である。
 - ウ：気象条件が危険なら注意だけで作業を継続すべきではない。
 - エ：中止基準と代替工程を事前設定することで、安全と工程を両立できる。
- 総合解説：気象影響を受ける作業は、予報確認、中止基準、飛散防止、代替工程まで計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

ポンプを機械室に据え付ける施工計画で、配置検討として最も適切なものはどれか。
ア．据付・配管接続だけでなく、弁操作、ストレーナ清掃、軸封交換、将来更新の搬出入スペースまで確認する。
イ．将来更新は別工事なので、施工計画では考慮しない。
ウ．配管が接続できればよく、保守スペースは運用開始後に確保する。
エ．機器間隔はできるだけ狭くし、空いた場所に点検通路を設ける。

答え・解説 正答：ア

ア：設備施工では完成時の機能と維持管理性を両方満たす配置が必要である。
イ：更新経路を無視すると将来の大規模解体につながり得る。
ウ：完成後にスペースを確保するのは困難で、保守性を損なう。
エ：機器周囲の点検・操作・解体スペースを優先して納まりを決める。
総合解説：施工計画の良否は施工しやすさだけでなく、完成後の操作・保守・更新性でも評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

店舗営業中に天井内の排水管更新を行う場合、施工計画の記述として適切なものはどれか。
ア．工事区画内の作業なので店舗側への説明は不要である。
イ．騒音・粉じん・臭気・閉鎖範囲を整理し、店舗側と作業時間、養生、仮設動線、清掃・復旧確認の方法を事前調整する。
ウ．排水工事では騒音だけ対策すれば、粉じんや臭気は考えなくてよい。
エ．作業時間は施工者が工程だけで決定する。

答え・解説 正答：イ

ア：営業施設では工事区画外への影響もあり、事前説明と調整が必要である。
イ：営業影響を具体化し、関係者と合意して施工条件に反映している。
ウ：切断・清掃・既設配管開放では複数の環境影響を管理する。
エ：施設運用との調整なしに作業時間を決めるのは不適切である。
総合解説：稼働施設の施工計画では、利用者影響を洗い出し、時間・区画・養生・復旧を関係者と調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

配管ルート変更により予定していた工程と作業方法を大きく見直す必要が生じた。最も適切な対応はどれか。

ア．工程だけ修正し、品質や安全の確認は元計画をそのまま使う。

イ．変更前の計画書を残さず、新しい計画書に差し替える。

ウ．変更理由と影響を整理し、品質・安全・工程・他工種への影響を再評価して施工計画を改訂し、関係者へ周知する。

エ．現場で対応可能なら施工計画書は変更せず、口頭だけで班長へ伝える。

答え・解説 正答：ウ

ア：方法変更は品質・安全条件も変える可能性がある。

イ：変更履歴を残すことで経緯と承認範囲を追跡できる。

ウ：施工方法の重要変更では、複数管理項目を再評価して正式に計画へ反映する。

エ：口頭指示だけでは情報伝達と追跡性が不足する。

総合解説：施工計画は固定文書ではなく、条件変更時に影響を評価して更新・周知する管理文書である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

施工経験記述で「なぜその措置を採ったか」を明確にする表現として最も適切なものはどれか。

ア．「経験に基づき最善と思う方法で施工した」と記す。

イ．「工程を守るため工夫した」とだけ記す。

ウ．「現場の状況を見て臨機応変に対応した」と記す。

エ．「既設給水停止時間が2時間に制限されていたため、事前に新設系統を組み立て、切替箇所を2点に集約して停止時間を短縮した」と記す。

答え・解説 正答：エ

ア：経験という表現だけでは検証可能な施工管理内容にならない。

イ：工夫の内容と根拠が不明である。

ウ：具体的な判断対象と措置が示されていない。

エ：制約条件、採用した措置、狙った効果の因果関係が具体的で評価しやすい。

総合解説：実地系の記述では「条件・課題→措置→理由・効果」のつながりを具体的に示すと、施工管理能力を表現しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

- 品質管理の施工経験記述として、最も具体性が高いものはどれか。
- ア．冷温水配管の耐圧試験について、試験圧力、保持時間、確認箇所を事前に定め、継手部の漏れを目視確認して結果を記録した。
 - イ．品質に注意しながら配管を施工した。
 - ウ．必要な検査を適切に実施した。
 - エ．完成後に問題が起きないように十分配慮した。

答え・解説 正答：ア

- ア：管理項目・基準・確認方法・記録が示され、品質管理行為が明確である。
イ：管理対象や確認方法が具体化されていない。
ウ：何を、どの基準で検査したか不明である。
エ：抽象的な意図だけで実施内容を評価できない。
総合解説：品質管理記述では、対象、管理基準、確認方法、結果・記録を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

- 天井内配管を仕上げて隠ぺいする工事の品質管理記述として適切なものはどれか。
- ア．隠ぺい後に不具合が出た場合だけ写真を撮影する。
 - イ．隠ぺい前に配管経路、支持、勾配、接合部、試験完了を確認し、必要な写真と検査記録を残してから天井を閉じた。
 - ウ．施工者が自信を持って施工したため、中間確認を省略した。
 - エ．完成後に点検口から見える範囲だけ確認した。

答え・解説 正答：イ

- ア：不具合発生後の写真では施工時の適合性を証明できない。
イ：後から確認困難な部分は隠ぺい前に検査・記録することが重要である。
ウ：確認可能な時点で客観的な検査を行う必要がある。
エ：完成後では確認できない範囲が残る。
総合解説：品質管理では、後工程で見えなくなる箇所ほど適切なタイミングで確認し、証拠を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

- 圧力試験に使用する圧力計について、品質管理上最も適切な記述はどれか。
- ア．試験結果だけ記録し、使用計器は記録しない。
 - イ．針が動けば精度確認は不要である。
 - ウ．使用範囲に適した計器を選び、点検・校正状況を確認したうえで試験値と計器識別情報を記録する。
 - エ．現場にある圧力計ならレンジに関係なく使用できる。

答え・解説 正答：ウ

ア：使用計器が不明だと測定結果の追跡性が低下する。
イ：作動することと測定精度が確保されていることは別である。
ウ：測定結果の信頼性を確保するには、適切な計器選定と状態確認、追跡可能な記録が必要である。
エ：過大レンジでは読取り精度が悪くなるなど、適合性を確認する必要がある。
総合解説：検査値だけでなく、測定方法と測定器の妥当性まで含めて品質を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

- 銅管のろう付け品質を安定させるための施工経験記述として適切なものはどれか。
- ア．完成後に水漏れがなければ、接合前の清掃状態は管理しない。
 - イ．作業者ごとのやり方に任せ、手順は統一しない。
 - ウ．ろう材の量を多くすれば品質は必ず向上する。
 - エ．接合面の清掃、差込み状態、加熱方法、ろう材の流れを作業標準に沿って確認し、代表箇所を外観と漏れ試験を確認した。

答え・解説 正答：エ

ア：完成検査だけでは潜在的な施工不良を十分に防げない。
イ：工程のばらつきを抑えるには標準化が必要である。
ウ：過剰なろう材が品質を保証するわけではなく、適切な作業条件が重要である。
エ：接合品質に影響する工程条件を管理し、完成後の確認と組み合わせている。
総合解説：品質を安定させるには、結果検査だけでなく施工中の重要条件を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

- ポンプ据付の品質管理記述として最も適切なものはどれか。
- ア．基礎位置、水平、アンカーボルト、配管接続による無理な荷重の有無を確認し、試運転時に振動・異音・漏れを確認した。
 - イ．配管接続で多少機器を引き寄せても、運転でできれば問題ない。
 - ウ．据付後の運転確認はメーカーに任せ、施工者は行わない。
 - エ．アンカーボルトが締まっていれば水平確認は不要である。

答え・解説 正答：ア

- ア：据付精度と接続状態、運転結果を連続して確認している。
- イ：配管応力で機器を拘束すると変形や振動の原因となる。
- ウ：施工者も完成品質として運転状態を確認する必要がある。
- エ：水平や芯ずれは振動・軸受負荷等に影響するため確認が必要である。
- 総合解説：機器品質は据付寸法だけでなく、接続による外力と運転時の状態まで確認して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

- 冷水配管の保温・防露施工について、品質管理記述として適切なものはどれか。
- ア．外装材の色がそろっていれば性能確認は不要である。
 - イ．保温材の厚さと継目、支持部・弁周りの連続性、防湿層の欠損を確認し、結露につながる隙間がないことを確認した。
 - ウ．保温材が付いていれば、継目や防湿層は確認しない。
 - エ．見える直管部だけ確認し、支持部や弁周りとは対象外とする。

答え・解説 正答：イ

- ア：外観の統一だけでは断熱・防露性能を保証できない。
- イ：防露性能に影響する連続性と防湿層まで管理している。
- ウ：隙間や防湿層欠損は結露の原因になり得る。
- エ：複雑部ほど施工欠陥が生じやすく、確認対象である。
- 総合解説：品質特性に直接影響する施工部位と工程条件を特定して確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

試験で一部の継手から漏れが確認された場合の品質管理記述として適切なものはどれか。
ア．漏れた継手だけ増し締めし、再試験せず試験済み扱いとした。
イ．漏れが少量だったため記録せず補修した。
ウ．漏れ箇所を識別し、原因を確認して補修方法を決め、補修後に対象範囲を再試験し、結果を記録した。
エ．原因調査はせず、全継手を一律に交換した。

答え・解説 正答：ウ

ア：補修後の適合性を確認しなければ品質保証にならない。
イ：不適合を記録しないと傾向分析や追跡ができない。
ウ：不適合の識別、原因確認、是正、再確認、記録までがつながっている。
エ：原因を確認せず過剰な処置を行うのは合理的でない。
総合解説：不適合処理では、現象を直すだけでなく原因と影響範囲を見極め、是正後に適合を再確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

ダクトの風量測定を施工経験として記述する場合、最も適切な内容はどれか。
ア．風量の大小は体感で判断し、測定値を残さなかった。
イ．調整前の測定値だけを記録し、最終状態は確認しなかった。
ウ．代表の吹出口1か所だけ測定し、他は同じ風量とみなした。
エ．測定時の運転状態をそろえ、各吹出口の風量を測定して設計値と比較し、調整後に再測定して最終値を記録した。

答え・解説 正答：エ

ア：体感では客観的な性能確認にならない。
イ：調整後の最終適合性を確認することが必要である。
ウ：系統や末端条件により風量は異なり、必要箇所を測定する。
エ：測定条件、比較基準、調整、最終確認まで記述されている。
総合解説：性能試験の記述は、条件をそろえた測定、基準との比較、調整後の確認まで示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

複数階で同じ型式の配管接合を行った工事で、品質記録の管理として最も適切なものはどれか。

ア．階・系統・施工日・施工者・検査結果を関連付けて記録し、不具合発生時に対象範囲を追跡できるようにする。

イ．不具合がなければ施工者や場所の識別は不要である。

ウ．全階をまとめて「異常なし」と1行だけ記録する。

エ．写真は多ければよいので、撮影場所を記録しない。

答え・解説 正答：ア

ア：識別情報を関連付けることで、施工品質の追跡と影響範囲の特定ができる。

イ：追跡性は不具合時だけでなく通常の品質保証にも必要である。

ウ：一括記録ではどこを確認したか判別できない。

エ：場所情報のない写真は証拠性が低い。

総合解説：品質記録は量よりも、対象箇所・施工条件・結果を追跡できる構造が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

「品質不良を出さないよう注意した」という記述を改善する場合、最も適切なものはどれか。

ア．「特に注意して慎重に施工した」とする。

イ．「排水横枝管の勾配を施工前に基準高さから墨出しし、支持完了後と隠ぺい前にレベルで再確認して測定値を記録した」とする。

ウ．「熟練作業員を配置して品質を確保した」とだけする。

エ．「監督者が随時確認した」とだけする。

答え・解説 正答：イ

ア：注意の程度は客観的に評価できない。

イ：具体的な品質特性、管理方法、確認時期、記録が示されている。

ウ：人の熟練だけでは管理基準や確認方法が不明である。

エ：何をどの基準で確認したかが示されていない。

総合解説：施工経験記述は、主観的な努力ではなく、客観的に評価できる管理行為へ置き換える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

安全管理の施工経験記述として最も適切なものはどれか。
ア．事故が起きないように各自に注意させた。
イ．経験者だけで作業したので特別な措置は採らなかった。
ウ．配管吊込み時の落下・接触を危険源として特定し、吊荷下を立入禁止にし、合図者を定め、玉掛け状態を確認してから揚重した。
エ．安全第一を全員に周知した。

答え・解説 正答：ウ

ア：個人の注意だけに依存せず、設備・区画・手順を整える必要がある。
イ：経験は対策の代替にはならない。
ウ：具体的な危険源と複数の対策が対応しており、安全管理内容が明確である。
エ：標語だけでは具体的なリスク低減措置にならない。
総合解説：安全記述では「何が危険か」「どのように危険を下げたか」を具体的に結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

天井配管の高所作業について、安全管理の記述として適切なものはどれか。
ア．高所作業は本人の注意力が最も重要なので設備対策は不要である。
イ．脚立作業に慣れた作業員を配置したので、周辺区画は設けなかった。
ウ．短時間作業であれば、不安定な足場板でも使用できる。
エ．作業床と手すりのある適切な作業設備を使用し、開口部を養生・表示し、必要箇所では墜落制止器具の使用条件も確認した。

答え・解説 正答：エ

ア：個人の注意より先に設備的・管理的対策を講じる。
イ：熟練だけでは墜落・第三者接触の危険を除去できない。
ウ：短時間でも不安全な作業床は使用すべきでない。
エ：墜落危険は作業設備、開口養生、必要な保護具を組み合わせで低減する。
総合解説：高所作業では、可能な限り安全な作業床・手すり等を優先し、残留リスクに保護具を適用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

既存建物内で配管の溶接を行う場合の安全管理記述として最も適切なものはどれか。

- ア．周囲の可燃物を除去・養生し、火花の飛散範囲を確認して消火器を配置し、火気監視と作業後の残火確認を行った。
- イ．溶接場所がコンクリート床なら、周辺確認は不要である。
- ウ．消火器を置けば可燃物の除去や養生は不要である。
- エ．作業終了と同時に監視を終了し、残火確認は行わない。

答え・解説 正答：ア

- ア：火災発生要因を除去し、飛散防止・初期消火・作業後確認を組み合わせている。
 - イ：火花は周囲や下階へ飛散するため、床材だけで安全とは判断できない。
 - ウ：消火器は発生防止策の代替ではない。
 - エ：火種が残る可能性を考慮して終了後も確認する。
- 総合解説：火気作業は、着火源、可燃物、飛散経路、消火、作業後確認を一連で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

重量機器をクレーンで吊り込む施工経験の安全管理記述として適切なものはどれか。

- ア．吊荷の近くに作業員を配置し、手で向きを調整させる。
- イ．機器重量と重心、吊り具能力、吊上げ経路を確認し、作業範囲を立入禁止として合図方法を統一し、試し吊り後に本吊りした。
- ウ．合図は複数人が状況に応じて自由に出す。
- エ．クレーン能力に余裕があれば重心確認は不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：吊荷との接触・挟まれを避けるため危険域へ入れない。
 - イ：荷と機械の条件、作業区域、合図、試し吊りまで含む安全な手順である。
 - ウ：合図者と方法を明確にして混乱を防ぐ。
 - エ：偏心荷では傾きや吊り具への偏荷重が生じるため重心確認が必要である。
- 総合解説：揚重作業では、荷の特性、機械能力、吊り具、経路、立入管理、合図を事前に計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

地下ピット内で既設配管を撤去する作業について、安全管理の記述として最も適切なものはどれか。
ア．作業員が2人以上いれば、連絡や救出方法は決めなくてよい。
イ．臭いがなければ酸素欠乏の危険はないと判断する。
ウ．作業場所の危険性を事前評価し、必要な測定・換気・監視・連絡方法を定め、異常時に直ちに退避できる体制を整える。
エ．短時間作業なら測定や換気を省略してよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：異常時の連絡・救出は事前計画が必要である。
イ：酸素濃度低下は臭いで判断できない。
ウ：見えない危険を測定・換気・監視・退避体制で管理する考え方が適切である。
エ：滞在時間の短さだけでは危険を否定できない。
総合解説：閉鎖性の高い場所では、危険性を推測せず測定と管理体制で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

同じ機械室で配管溶接と塗装作業を同時に行う可能性がある場合、安全管理として最も適切なものはどれか。
ア．それぞれ別会社の作業なので相互調整は不要である。
イ．作業員同士が当日相談すれば、施工計画での調整は不要である。
ウ．火気作業側だけが注意し、塗装側の材料情報は確認しない。
エ．塗料等の危険有害性と火気作業の影響を確認し、同時作業を避ける時間調整や区画・換気などを施工前に決める。

答え・解説

正答：エ

ア：同一場所の危険は請負会社の違いに関係なく調整が必要である。
イ：当日判断だけでは代替作業や設備対策を準備できない。
ウ：危険性評価には使用材料の情報も必要である。
エ：作業相互の危険が増幅するため、工程・区画・換気等を統合的に調整する必要がある。
総合解説：同時作業では個別作業の危険だけでなく、相互作用を評価して競合を解消する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

駅施設内で通行者の近くを配管改修する場合の安全管理記述として適切なものはどれか。

- ア．施工区画を明確に分離し、資材落下・工具飛散を防止し、搬入時は誘導員を配置して利用者動線と交錯しない時間帯を選定した。
- イ．立入禁止表示だけ設置し、物理的な区画は設けない。
- ウ．利用者が少ない時間なら、資材搬入と通行を同じ通路で同時に行う。
- エ．作業員用保護具を徹底すれば、利用者側の対策は不要である。

答え・解説 正答：ア

ア：第三者の存在を前提に、区画、落下防止、時間分離、誘導を組み合わせている。

イ：表示だけでは誤進入や飛来落下を十分に防げない。

ウ：利用者と重量物搬入の動線は可能な限り分離する。

エ：PPEは作業員を守るもので第三者災害防止の代替にならない。

総合解説：公共性の高い場所では、作業員だけでなく第三者の生命・身体・財産を守る計画が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

「作業員に安全教育を行った」という記述を、より評価可能な安全管理記述へ改善する場合に最も適切なものはどれか。

- ア．「事故が起こらないよう全員に気を付けてもらった」とする。
- イ．「天井内作業前に開口部と脚立使用の危険をKYで共有し、開口養生・立入区画・使用設備を確認した後、職長が対策実施を確認して作業を開始した」とする。
- ウ．「毎朝、安全について十分注意するよう伝えた」とする。
- エ．「経験豊富な作業員に任せた」とする。

答え・解説 正答：イ

ア：抽象的で、何を改善したか評価できない。

イ：対象危険、具体的対策、確認者、作業開始条件が示されている。

ウ：注意喚起だけで設備的・管理的対策が不明である。

エ：熟練者配置だけでは安全措置を説明できない。

総合解説：安全経験の記述では、教育の実施だけでなく、特定した危険と実際に講じた対策を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

配管材料の納入が3日遅れることが判明した。工程遅延への初動として最も適切なものはどれか。

ア．材料が届くまで全作業を停止する。

イ．遅延日数だけ工程表の完成日へ加算する。

ウ．納入遅延がどの作業と後続工程に影響するかを工程表で確認し、代替作業への振替や搬入順序の変更を検討する。

エ．現場作業員を増員すれば材料未納でも同じ作業を進められる。

答え・解説 正答：ウ

ア：未納材料と無関係な作業まで止める必要はない。

イ：余裕時間や並行作業を考慮せず単純加算するのは不適切である。

ウ：影響経路を確認して、実行可能な代替作業と回復策を検討するのが適切である。

エ：材料がなければ対象作業は進められず、増員だけでは解決しない。

総合解説：遅延対応は、原因・影響範囲・クリティカル性を確認してから回復策を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

複数作業が遅れているとき、工期回復の優先順位として最も適切なものはどれか。

ア．作業費が最も高い作業から優先する。

イ．完了率が最も低い作業から機械的に優先する。

ウ．遅延日数が最も大きい作業だけを必ず優先する。

エ．全体工期を支配するクリティカルパス上の作業と、余裕時間を消費してクリティカル化しそうな作業を優先して対策する。

答え・解説 正答：エ

ア：工事費と工期支配性は一致しない。

イ：進捗率だけでは後続関係や余裕時間を判断できない。

ウ：遅延日数が大きくても余裕内なら全体工期へ影響しない場合がある。

エ：全体工期への影響で優先順位を判断するのが工程管理の基本である。

総合解説：工程遅延対策は、個々の遅れの大きさより全体工期への影響を基準にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

機器承認の遅れで据付作業を開始できないが、同じ区域で先行可能な作業がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．安全・品質・干渉条件を確認したうえで、支持金物や関連配管のうち承認済み範囲を先行し、全体工程への影響を抑える。
- イ．据付が遅れる分だけ竣工日を自動的に延期する。
- ウ．承認前の機器寸法を推定して、すべての配管を先行施工する。
- エ．当初工程どおりでなければ作業順序を変更してはいけない。

答え・解説 正答：ア

- ア：確定情報の範囲で安全に先行できる作業を選ぶのが合理的である。
 - イ：回復可能性を検討せず工期延期とするのは適切でない。
 - ウ：未確定寸法に基づく先行は手戻りリスクが高い。
 - エ：工程計画は条件変化に応じて合理的に見直す。
- 総合解説：工程回復では、確定情報と施工制約を確認し、手戻りを生じない範囲で作業順序を最適化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

遅れている狭い機械室内の配管作業に人員を増やす案について、最も適切な判断はどれか。

- ア．遅れている場合は人数を倍にすれば必ず工期を半分にできる。
- イ．作業スペース、同時作業干渉、監督可能人数を確認し、増員による生産性向上が期待できる範囲で投入する。
- ウ．人員は多いほどよいので作業スペースは考慮しない。
- エ．増員すると品質確認が不要になるため工程短縮できる。

答え・解説 正答：イ

- ア：人数と所要時間は単純な反比例関係ではない。
 - イ：資源追加の効果は作業空間や分業可能性に制約されるため、投入効果を評価する必要がある。
 - ウ：過密作業は安全性と生産性を低下させる。
 - エ：品質管理を省略して工期を回復してはならない。
- 総合解説：工程短縮策は、安全・品質を維持しつつ実際に生産性が上がるかを確認して採用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

配管支持位置の誤りで再施工が発生し、工程が遅れた。再度の遅延を防ぎながら回復する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．遅延回復を優先し、再検査は竣工時にまとめて行う。
- イ．再施工部分だけ直し、同じ手順で施工済みの他箇所は確認しない。
- ウ．誤りの原因を図面・墨出し・確認手順から特定し、修正範囲と再確認方法を決めてから、回復工程を組み直す。
- エ．原因調査をせず、人員を増やして同じ手順で再施工する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：品質確認を後回しにすると手戻りが拡大する。
 - イ：共通原因が疑われる場合は同様箇所への影響確認が必要である。
 - ウ：原因を除去してから回復策を実施することで、再発による二次遅延を防げる。
 - エ：同じ原因を残すと再び不適合が生じる可能性がある。
- 総合解説：遅延回復では、速度だけでなく遅延を生んだ品質・計画上の原因を除去する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

施工図承認が遅れ、現場着手が遅延している。最も適切な対応はどれか。

- ア．承認遅延を理由に全工程を停止する。
- イ．承認者の判断を待つだけで、工程側では何も対応しない。
- ウ．承認前でも現場判断で全て施工する。
- エ．未決事項と承認期限を一覧化し、工期への影響が大きい項目を明示して関係者と優先処理し、確定済み範囲は先行可能か検討する。

答え・解説 正答：エ

- ア：影響のない作業まで止める必要はない。
 - イ：待機だけでは管理行為にならない。
 - ウ：未承認内容の施工は手戻りや契約上の問題につながる。
 - エ：情報のボトルネックを可視化し、工期影響の大きい事項から解消するのが適切である。
- 総合解説：工程管理では、資材や作業だけでなく図面・承認・意思決定の期限も管理対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

営業施設で夜間4時間しか作業できず、1日の施工量が計画を下回っている。最も適切な対策はどれか。

ア．夜間にしかできない切替・騒音作業を限定し、昼間に加工・墨出し・材料準備を進めるなど、時間帯別に作業を分離する。

イ．夜間の作業時間を無断で延長する。

ウ．休憩を削って作業時間を確保する。

エ．品質検査を省略して施工量を増やす。

答え・解説 正答：ア

ア：制約時間を変えずに前加工や準備を別時間へ移すことで有効作業時間を増やせる。

イ：施設運用条件を無断変更してはならない。

ウ：労務・安全上の適切な休憩を犠牲にしてはいけない。

エ：品質保証を落として工期を回復するのは不適切である。

総合解説：厳しい時間制約下では、準備・加工・検査の配置を見直して実作業時間を最大化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

天井下地工事の遅れで設備仕上げ作業に影響が出る場合、管工事側の対応として適切なものはどれか。

ア．設備側だけ作業員を増やせば前提条件がなくても施工できる。

イ．設備作業の前提条件を確認し、他工種と最新工程を共有して、先行可能な区画への振替や区画別引渡しを調整する。

ウ．天井下地未完了でも仕上げ機器を先に取り付ける。

エ．他工種の遅れなので、自社工程表は変更しない。

答え・解説 正答：イ

ア：前提条件が成立しなければ増員しても施工できない。

イ：前提条件と区画を再整理して全体工程を調整するのが適切である。

ウ：先付けが破損・手戻りを招く場合がある。

エ：他工種遅延も自社の後続工程へ影響するため更新が必要である。

総合解説：複数工種の工程は相互依存するため、最新情報を共有し区画単位で施工順序を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

屋外配管工事が連日の悪天候で遅れている。最も適切な対応はどれか。

ア．遅れを取り戻すため、回復後は安全確認を省略する。

イ．雨天でも防水服を着用すればすべての屋外作業を続行する。

ウ．安全な屋内作業へ人員を振り替えつつ、天候回復後の必要資源と作業順序を準備し、工期影響を再評価する。

エ．天候は不可抗力なので工程更新は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：回復時も安全・品質の確認を維持する。

イ：天候により危険となる作業を無理に継続すべきではない。

ウ：安全を優先しながら代替作業と回復準備を行うことで時間損失を抑えられる。

エ：現実の進捗に合わせて工程影響を更新する必要がある。

総合解説：不可抗力による遅延でも、代替作業、再計画、関係者報告を行うことが工程管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

指定機器の納期が竣工日に間に合わない可能性が判明した。最も適切な対応はどれか。

ア．納期だけを優先して無断で別メーカー品へ変更する。

イ．機器到着まで周辺工事もすべて止める。

ウ．竣工後に交換すればよいとして仮設計画や承認を省略する。

エ．性能・寸法・接続・承認条件を整理し、発注者・監督者と代替機器や仮設対応を協議するとともに、周辺施工への影響を確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：無断変更は要求性能や契約適合性を満たさない可能性がある。

イ：先行可能な周辺作業まで止める必要はない。

ウ：仮設であっても安全・性能・承認を計画する必要がある。

エ：代替案は性能・納まり・契約条件を確認し、正式な承認のもとで進める。

総合解説：調達遅延では、代替品・仮設・周辺先行の可能性を技術的に評価し、正式に協議する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

工期回復のために「中間検査を減らす」案が出た。最も適切な判断はどれか。
ア．必要な検査は維持し、検査予約の前倒し、区画分割、記録のデジタル共有などで待ち時間を減らす方法を検討する。
イ．完成検査があるため、中間検査はすべて不要とする。
ウ．検査記録を後日まとめて作成すれば、現場確認は減らしてよい。
エ．工程短縮が優先なので、隠ぺい部の検査を省略する。

答え・解説 正答：ア

ア：品質保証に必要な確認を削らず、工程上の待ち時間や手順を改善するのが適切である。
イ：完成時だけでは施工途中の品質を確認できない。
ウ：記録は実際の確認に基づいて作成する。
エ：隠ぺい後に確認できない項目を省略してはならない。
総合解説：工期短縮は品質管理を削ることではなく、作業・検査・承認の流れを効率化して実現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

2週間の遅延を1週間で回復する工程案を作成した。実行前に最も重視すべき確認はどれか。
ア．回復工程は現場へ周知せず、管理者だけが把握する。
イ．追加人員・機械・材料・作業空間・検査体制が確保でき、同時作業による安全・品質リスクが許容できるかを確認する。
ウ．工程表上で日数が1週間短くなっていれば実行可能と判断する。
エ．残業時間を増やせば他の条件は確認しなくてよい。

答え・解説 正答：イ

ア：作業者・関係工種への共有がなければ計画どおり実行できない。
イ：工程表の見かけだけでなく、必要資源と安全・品質条件が成立するか確認する必要がある。
ウ：実行可能な資源裏付けがなければ工程は成立しない。
エ：労務上限や疲労、安全を考慮する必要がある。
総合解説：回復工程は、資源・空間・安全・品質・労務条件を満たして初めて実効性を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

配管工事の進捗率が計画70％に対して実績60％だった。次の対応として最も適切なものはどれか。

ア．10ポイント遅れているので、必ず工期も10％延長する。

イ．全作業員へ一律に10％増産するよう指示する。

ウ．未達10ポイントの内訳を作業区画・工程・原因別に確認し、後続工程への影響と回復余地を評価する。

エ．進捗率だけ記録し、原因分析は竣工後に行う。

答え・解説 正答：ウ

ア：進捗率差と工期遅延率は単純には一致しない。

イ：作業内容・ボトルネックを無視した一律指示は実効性が低い。

ウ：進捗率差の原因と工期影響を分解して判断する必要がある。

エ：遅延拡大前に原因を把握して対策する。

総合解説：進捗管理では、計画と実績の差を数値で捉えた後、その原因と将来影響まで分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

受注者の責によらない大規模な設計変更で全体工期への影響が避けられない。最も適切な対応はどれか。

ア．品質検査を減らして当初工期を必ず守る。

イ．設計変更は発注者側の事情なので工程表を更新しない。

ウ．現場努力で吸収できるまで協議せず、竣工直前にまとめて報告する。

エ．変更による追加作業と工程影響を根拠資料で整理し、早期に監督職員へ報告・協議して工期変更の必要性を明確にする。

答え・解説 正答：エ

ア：品質を犠牲にした工期遵守は認められない。

イ：設計変更後の実態に合わせて工程を更新する必要がある。

ウ：協議が遅れるほど合理的な対応選択肢が減る。

エ：工期影響を早期に可視化し、根拠をもって協議するのが適切である。

総合解説：受注者の責によらない条件変更で工期影響が生じる場合、影響を整理して早期協議することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

耐圧試験中に配管継手から漏れを発見した。最初の対応として最も適切なものはどれか。
ア．試験を安全に停止し、漏れ箇所を識別・記録して、原因と影響範囲を確認したうえで補修方法を決める。
イ．漏れ箇所だけ写真を消去し、再試験で合格すればよい。
ウ．圧力を保ったまま継手を増し締めする。
エ．漏れ量が少なければそのまま合格とする。

答え・解説 正答：ア

ア：安全確保と不適合の識別を行ってから原因確認・是正へ進む。
イ：不適合記録を残すことが追跡と再発防止に必要である。
ウ：加圧中の補修は危険であり、試験条件を安全に解除する必要がある。
エ：要求基準に適合しない漏れを軽微として放置できない。
総合解説：品質不良への初動は、安全確保、不適合の隔離・識別、事実記録、原因・影響確認の順に進める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

同じ施工班が施工した複数箇所のうち1箇所で接合不良が見つかった。最も適切な対応はどれか。
ア．発見箇所だけ補修し、他は問題が出るまで確認しない。
イ．施工日、作業者、材料ロット、施工方法を確認し、同じ原因が及ぶ可能性のある範囲を抽出して追加確認する。
ウ．全建物の配管を無条件に撤去して交換する。
エ．同じ作業者でも場所が違えば共通原因はないと判断する。

答え・解説 正答：イ

ア：共通原因があれば未発見不良を残す可能性がある。
イ：共通条件から影響範囲を合理的に特定することで見逃しと過剰処置を防げる。
ウ：原因確認なしの全交換は必要以上の手戻りとなる。
エ：作業者・材料・手順などが共通なら場所が違って関連し得る。
総合解説：不適合は発見点だけでなく、共通条件を手掛かりに水平展開して影響範囲を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

排水管の逆勾配を補修する際、再発防止につながる原因分析として最も適切なものはどれか。
ア．担当者の注意不足とだけ結論付ける。
イ．補修できたので原因分析は不要とする。
ウ．支持位置の墨出し方法、基準高さの伝達、施工後確認の有無を調べ、逆勾配が生じた管理上の原因を特定する。
エ．逆勾配になったこと自体を原因とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：個人要因だけでは手順や情報伝達の問題を見逃す。
イ：補修と再発防止は別の管理活動である。
ウ：現象の背後にある施工・確認プロセスを分析することで再発防止策につなげられる。
エ：逆勾配は不適合現象であり、その発生理由を掘り下げる必要がある。
総合解説：原因分析は「何が悪かったか」だけでなく「なぜ管理で防げなかったか」まで掘り下げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

設備機器のアンカー位置が設計図と異なることが判明した。是正対応として適切なものはどれか。
ア．設備性能に関係ないとして図面修正だけ行い、現物は確認しない。
イ．機器が固定できれば、現場判断でアンカーを追加する。
ウ．見えなくなる部分なので記録せず、そのまま仕上げる。
エ．構造・耐震・納まりへの影響を確認し、必要な是正方法を関係者と協議・承認したうえで施工し、再確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：図面だけでなく実物の適合性を確認する。
イ：アンカー変更は構造・耐震性能に影響し得るため無断変更できない。
ウ：隠ぺいしても不適合が消えるわけではなく記録が必要である。
エ：是正による他性能への影響を評価し、正式な方法で施工・再確認する必要がある。
総合解説：是正は元の不適合だけでなく、是正方法が別の要求事項を損なわないか確認して実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

- 保温材の厚さ不足を一部で補修した。再検査として最も適切なものはどれか。
- ア．補修箇所の厚さと施工状態を再確認し、同じ施工条件の範囲にも厚さ不足がないか確認して記録する。
 - イ．補修材を追加したことだけ確認し、厚さは測らない。
 - ウ．一度不合格だった箇所は、補修後も再検査せず合格扱いにする。
 - エ．補修箇所以外は同じ班が施工していても確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：是正後の適合性と共通原因による影響範囲を確認している。
- イ：追加施工しただけでは要求厚さを満たすか分からない。
- ウ：是正の有効性を再検査で確認する必要がある。
- エ：同条件での施工には水平展開が必要な場合がある。
- 総合解説：不適合の是正後は、要求事項に適合したことを客観的に再確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

- 品質不良の処理記録に含める内容として最も適切なものはどれか。
- ア．不適合写真だけ保存し、場所や是正内容は記録しない。
 - イ．発見日時・場所・不適合内容、原因、影響範囲、是正方法、再検査結果、承認者を関連付けて残す。
 - ウ．口頭で関係者に説明したので書面記録は不要とする。
 - エ．「補修済み」の一語だけ記録する。

答え・解説 正答：イ

- ア：写真だけでは対象・判断・結果を十分説明できない。
- イ：不適合の発見から閉鎖までの判断と結果を追跡できる記録となる。
- ウ：重要な品質判断は記録で残し、後から確認できるようにする。
- エ：何がどのように是正されたか追跡できない。
- 総合解説：不適合記録は、再発分析と検査証拠の両方に使えるよう一連の処理を追跡可能にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

漏水を一時的に止めるため仮バンドを取り付けた。品質管理上の扱いとして最も適切なものはどれか。

ア．見た目に問題なければ再試験は不要とする。
イ．漏れが止まった時点で恒久是正完了とする。
ウ．仮バンドを応急処置として識別し、恒久的な補修方法と実施期限を定め、完了後に再試験する。
エ．仮設であることを記録せず、そのまま引き渡す。

答え・解説 正答：ウ

ア：恒久補修後の適合性を試験で確認する。
イ：一時的な漏れ止めが設計・仕様上の恒久品質を満たすとは限らない。
ウ：応急処置と恒久是正を区別し、仮状態が残存しないよう管理している。
エ：仮措置は明確に管理し、引渡し前に解消する必要がある。
総合解説：緊急の応急処置は必要な場合があるが、恒久是正への移行と完了確認を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

接合不良に対して作業手順を改訂した後、再発防止の有効性を確認する方法として最も適切なものはどれか。

ア．手順書を配布した時点で有効と判断する。
イ．教育を1回実施すれば結果確認は不要である。
ウ．不具合が再発しても別の個人の問題として扱う。
エ．改訂手順で施工した後続ロットの検査結果を確認し、不良率や同種不適合の発生有無を一定期間追跡する。

答え・解説 正答：エ

ア：文書改訂だけでは現場で機能しているか分からない。
イ：教育の理解・実践結果まで確認する必要がある。
ウ：再発時は対策の有効性を再評価する。
エ：対策実施後の実績で再発防止効果を検証することが重要である。
総合解説：再発防止策は「実施したこと」ではなく「同種不良が減ったこと」で有効性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

試運転で室温は概ね目標に達したが、測定風量が設計値から大きく外れている。最も適切な対応はどれか。

- ア．室温だけで合格とせず、風量不適合の原因をダンパ、系統抵抗、送風機条件等から確認し、要求値への適合を是正・再測定する。
- イ．利用者が苦情を言わなければ合格とする。
- ウ．風量計の値が不都合なので体感評価へ置き換える。
- エ．室温が合っているため風量値は記録から削除する。

答え・解説 正答：ア

ア：複数の要求性能がある場合、一つの結果だけで他の不適合を無視できない。
イ：要求基準を満たすか客観的に確認する必要がある。
ウ：測定値に疑義があれば計器を確認するが、体感だけには置き換えない。
エ：記録の改変は品質保証を損なう。
総合解説：品質判定は要求事項ごとに行い、結果が良い項目で別項目の不適合を相殺しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

品質不良の是正により工程遅延が見込まれる場合、最も適切な施工管理判断はどれか。

- ア．再検査を省略すれば工期を維持できるので実施しない。
- イ．必要な是正と再検査は確実にを行い、その所要時間を工程へ反映して、並行可能作業や資源再配置で影響を最小化する。
- ウ．工期優先で是正を省略し、引渡し後に直す。
- エ．是正を優先するため、影響のない作業もすべて停止する。

答え・解説 正答：イ

ア：是正後の適合性確認は必須である。
イ：品質適合を確保しつつ、工程側で回復策を検討するのが適切である。
ウ：要求品質を満たさないまま引き渡してはならない。
エ：是正と無関係な作業まで停止する必要はない。
総合解説：品質と工程はトレードオフとして片方を犠牲にせず、必要な是正を前提に工程を再構成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

配管の出来形を判定する基本として最も適切なものはどれか。

ア．施工班の経験値と比較して適否を決める。

イ．見た目が良ければ寸法測定を省略する。

ウ．設計図書・承認図・規格値などの要求値を明確にし、定めた測定方法で実測して適否を判定する。

エ．他現場の標準寸法を基準に判定する。

答え・解説 正答：ウ

ア：経験は補助情報であり正式な判定基準にはならない。

イ：外観だけでは寸法・勾配・位置を保証できない。

ウ：出来形は当該工事の要求事項と客観的な測定結果で判定する。

エ：別工事の条件をそのまま適用できない。

総合解説：出来形管理は、要求値と実測値を同じ基準で比較して適否を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

複数班が同じ階の配管高さを測定したところ値が一致しない。最初に確認すべきことはどれか。

ア．最も高い値を採用して安全側とする。

イ．測定差は必ず施工誤差なので配管を直す。

ウ．各班の測定値の平均を正式値にする。

エ．共通の基準高さ、測定位置、測定器、読取り方法が統一されているか確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：高い値が必ず安全側とは限らない。

イ：測定系の不整合を除外してから施工状態を判定する。

ウ：異なる基準の平均には物理的意味がない。

エ：測定条件が一致していなければ、値の差が施工差か測定差か判断できない。

総合解説：出来形判定では測定値の前に、基準点と測定方法の再現性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

天井で隠べいされる排水管の勾配を出来形管理する場合、最も適切な方法はどれか。
ア．天井閉鎖前に基準高さから複数点を測定し、勾配を確認して位置が分かる写真・記録を残す。
イ．流れれば勾配は適合と判断し、測定しない。
ウ．天井閉鎖後に点検口から見える1点だけ確認する。
エ．竣工図に設計勾配を記入すれば実測は不要である。

答え・解説 正答：ア

ア：隠べい前に測定・記録することで実際の出来形を証明できる。
イ：流下だけでは規定勾配やたわみの有無を定量判定できない。
ウ：閉鎖後では全区間の確認が困難である。
エ：竣工図は実測結果に基づき作成すべきである。
総合解説：隠べい部は確認可能な施工段階で測定し、位置と数値を追跡できる記録を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

同じ箇所を2台のレーザーレベルで測定したところ、大きく異なる値が出た。出来形判定として適切な対応はどれか。
ア．2台の値の平均を正式な出来形値とする。
イ．基準点と各測定器の状態を確認し、信頼できる条件で再測定してから判定する。
ウ．都合のよい方の測定値を採用する。
エ．施工者が使用した機器の値を必ず優先する。

答え・解説 正答：イ

ア：異常原因が不明なまま平均しても正しい値になる保証はない。
イ：測定系の信頼性を確認してから適否判定する必要がある。
ウ：判定基準に合う値を選ぶ行為は不適切である。
エ：使用者ではなく測定器と基準の妥当性で判断する。
総合解説：出来形値に疑義がある場合は、測定器・基準・方法を検証して再測定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

配管位置が設計値からずれているが、機能には支障がないように見える。最も適切な出来形判定はどれか。

- ア．見えない場所なら許容差を適用しなくてよい。
- イ．他工種と干渉しなければ必ず合格とする。
- ウ．まず設計図書や承認内容の許容範囲を確認し、範囲外なら機能だけで自己判断せず、是正・協議の要否を判断する。
- エ．機能するなら寸法規格は無視してよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：隠べい箇所でも要求事項は変わらない。
 - イ：干渉がないことは適合条件の一部にすぎない。
 - ウ：要求値は機能・納まり・保守等を含めて設定されるため、正式な基準で判定する。
 - エ：機能だけでは他の要求事項を満たすか分からない。
- 総合解説：出来形判定は主観的な「支障なし」ではなく、設計・規格・承認条件への適合で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

- 長い配管ラックの高さを複数点で測定し、1点だけ大きく外れていた。最も適切な対応はどれか。
- ア．最も多い測定値を代表値として合格とする。
 - イ．平均値が規格内なら1点の外れは無視する。
 - ウ．最大値と最小値を削除して平均を取り直す。
 - エ．外れた測点の測定誤差を確認し、再測定して実際の局所変形なら原因と影響を確認して是正する。

答え・解説 正答：エ

- ア：出来形は必要な箇所それぞれの適合を確認する。
 - イ：平均が良くても局所的な不適合は残り得る。
 - ウ：根拠なくデータを除外してはならない。
 - エ：局所不良を平均で隠さず、測定誤差が実不良かを確認する必要がある。
- 総合解説：出来形データは平均だけでなく、個々の測点とばらつきを確認して局所不良を見逃さない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

現場協議により配管ルートを変更し、承認のうえ施工した。出来形管理として最も適切な対応はどれか。

- ア．実際の施工位置を測定・確認し、承認された変更内容と整合するよう竣工図・記録へ反映する。
- イ．変更が承認済みなら出来形測定は不要である。
- ウ．元の設計図をそのまま竣工図として使用する。
- エ．施工者だけが変更位置を把握していれば記録しなくてよい。

答え・解説 正答：ア

ア：変更後の実施工状態を確認し、竣工情報へ正確に反映する必要がある。
イ：承認は計画の妥当性であり、施工結果の確認とは別である。
ウ：竣工図は完成物の状態を示す必要がある。
エ：維持管理のためにも変更位置を記録する。
総合解説：出来形管理の結果は、将来の維持管理に使える完成図書へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

試運転開始直前に、機器周囲の保守スペースが承認図より不足していることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．保守スペースは将来の問題なので竣工時の判定対象外とする。
- イ．使用開始前に不適合として扱い、点検・交換作業への影響を評価し、関係者と是正方法を決めて適合を確認する。
- ウ．図面上のスペースだけ修正し、現物は変更しない。
- エ．運転性能に問題がなければそのまま引き渡す。

答え・解説 正答：イ

ア：将来の点検・交換性は設備機能の重要な要素である。
イ：出来形要求には運転だけでなく維持管理性も含まれるため、適合確認が必要である。
ウ：現物不適合は図面修正だけでは解消しない。
エ：運転できても保守困難なら完成品質として問題が残る。
総合解説：出来形判定では、寸法・性能・安全・保守性など要求事項を総合して完成物の適合性を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

- 作業員が脚立から転落した災害を分析する際、最も適切な考え方はどれか。
- ア．脚立を撤去すれば原因分析は不要とする。
 - イ．転落した作業員の不注意だけを原因として終了する。
 - ウ．脚立の使用状態など直接原因だけでなく、作業方法の選定、事前計画、監督、設備準備など背景要因まで確認する。
 - エ．けがの大きさだけを分析し、作業条件は確認しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：設備を変える場合も、なぜ不適切な設備が選ばれたか確認する。
- イ：個人の不注意だけでは同じ条件を残す可能性が高い。
- ウ：再発防止には、災害に至った直接要因と管理上の背景要因の両方を把握する必要がある。
- エ：被害程度と発生原因は別に分析する必要がある。
- 総合解説：災害原因分析は、目の前の行動だけでなく、それを許した計画・設備・手順・管理の欠陥まで掘り下げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

- 災害直後の原因分析で最も適切な進め方はどれか。
- ア．管理者の第一印象を正式原因として記録する。
 - イ．原因を早く決めるため、現場写真を撮らずに片付ける。
 - ウ．当事者の証言だけで他の客観資料は確認しない。
 - エ．現場状況、設備状態、作業手順、関係者の証言、写真などの事実を保全し、推測と区別して時系列を整理する。

答え・解説 正答：エ

- ア：初期印象にはバイアスがあり、事実確認が必要である。
- イ：現場を変える前に証拠を保全することが重要である。
- ウ：証言は重要だが、設備・記録等と照合する必要がある。
- エ：客観的な事実を保全して時系列化することで、根拠ある分析ができる。
- 総合解説：事故原因を急いで断定せず、現場・記録・証言を組み合わせで事実関係を確定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

「保護具を着用していなかった」という事実から原因を掘り下げる問いとして最も適切なものはどれか。

ア．なぜ着用されなかったのかを、配備、選定、教育、監督、作業手順、着用しにくい作業条件などから検討する。

イ．保護具は個人責任なので管理側の要因は検討しない。

ウ．保護具未着用という事実をそのまま根本原因とする。

エ．着用しなかった本人を処分すれば分析を終了する。

答え・解説 正答：ア

ア：行動の背後にある仕組みや作業条件を確認することで、再発防止可能な原因へ到達できる。

イ：事業者側の選定・供給・教育・監督も原因になり得る。

ウ：未着用は直接要因であり、なぜ起きたかを分析する必要がある。

エ：処分だけでは同じ条件が残る可能性がある。

総合解説：なぜなぜ分析では責任追及ではなく、再発を防げる管理上の原因まで掘り下げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

吊り上げ中の機器が振れて作業員に接触した。原因分析で優先して確認すべき事項はどれか。

ア．事故後に機器が損傷していなければ分析を終了する。

イ．重心・吊り方、誘導方法、立入範囲、風や障害物、合図方法、試し吊りの実施状況を確認する。

ウ．作業員が避けるのが遅かったことだけを確認する。

エ．クレーンの定格能力だけ確認し、吊り方は調べない。

答え・解説 正答：イ

ア：物損の有無に関係なく人身災害の原因を分析する。

イ：吊荷の挙動と人の接近を生んだ技術・管理条件を総合的に確認する必要がある。

ウ：接近できる状態を作った背景要因も分析する。

エ：能力内でも重心や玉掛け、風で荷は振れる。

総合解説：揚重事故は、荷の特性、吊り具、機械、環境、人の配置、合図を一つの作業システムとして分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

溶接作業終了後に天井裏から火災が発生した。原因分析として最も適切なものはどれか。
ア．溶接機の電源容量だけを確認する。
イ．火災は作業終了後なので施工とは無関係とする。
ウ．火花の飛散経路、可燃物の有無、防災養生、火気監視、作業後の残火確認、周辺開口部を調査する。
エ．消火器が設置されていたかだけ確認する。

答え・解説 正答：ウ

ア：電源条件だけでは着火・延焼経路を説明できない。
イ：潜伏火種により終了後に発火することがある。
ウ：作業後火災では、飛散した火花が残存可燃物へ着火する経路と監視体制を分析する。
エ：初期消火設備だけでなく発生防止と残火確認も重要である。
総合解説：火気災害では、着火源、可燃物、飛散経路、防護、監視、終了確認を連続した原因系列として調べる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

配管埋設の掘削溝で側壁が崩れた。原因分析として優先すべきものはどれか。
ア．崩れた土を片付ければ土質確認は不要である。
イ．事故当日の作業員数だけを主原因として調べる。
ウ．掘削深さだけ確認すれば原因を特定できる。
エ．土質・地下水、掘削深さと勾配、土止めの有無、掘削土・重機荷重の位置、降雨、点検状況を確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：原因分析のため現場条件を可能な範囲で保全・記録する。
イ：人数だけでは土砂崩壊の技術的原因を説明できない。
ウ：深さは重要だが単独で崩壊を説明できない。
エ：掘削安定性に影響する地盤・水・形状・上載荷重・支保・点検を総合的に確認する。
総合解説：掘削災害は地盤条件と施工条件の組合せで発生するため、単一要因に決めつけない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

電動工具使用中に感電事故が発生した。原因分析として適切なものはどれか。

- ア．工具・コードの損傷、電源設備、漏電保護、接地、水濡れ、使用前点検、使用環境を確認する。
- イ．事故後に工具を廃棄し、状態を記録しない。
- ウ．感電した作業員の体質だけを調べる。
- エ．工具が動作していたため電気設備に異常はないと判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：電気設備と使用環境、点検・保護装置の状態を調べて事故経路を特定する。
イ：現物状態は重要な分析資料なので保全・記録する。
ウ：人体側ではなく電氣的危険源と管理条件を確認する。
エ：動作することと絶縁・漏電安全性は別である。
総合解説：感電事故では、電源から人体までの電流経路と、それを遮断すべき保護・点検が機能したかを分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

機械室内で作業員が床上の延長コードにつまずいて転倒した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．つまずいた本人の歩き方だけを原因とする。
- イ．コード配置だけでなく、通路計画、仮設電源位置、整理整頓、照明、作業区画、巡視での発見状況を確認する。
- ウ．軽傷だったため原因分析は不要とする。
- エ．延長コードを別の色にすれば分析を終了する。

答え・解説

正答：イ

ア：個人の行動だけでは通路上の危険源を残す。
イ：転倒を許した作業環境と管理の仕組みまで分析している。
ウ：被害が軽くても同種事故の再発防止が必要である。
エ：色の変更が有効かは、コードが通路にある原因を検討してから判断する。
総合解説：日常的な転倒災害でも、危険源の配置と発見・除去の管理プロセスを分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

作業手順書では二人作業と定めていたが、一人で作業して災害が起きた。原因分析として最も適切なものはどれか。

ア．手順書が存在するため管理側に問題はないとする。

イ．手順書をさらに長くすれば再発しないと判断する。

ウ．なぜ一人作業になったかを、人員配置、工程圧力、手順の実行可能性、監督、周知、作業変更の承認から確認する。

エ．手順違反した本人だけを原因として終了する。

答え・解説 正答：ウ

ア：文書があっても実行・監督されていなければ管理は機能していない。

イ：文書量より、内容の妥当性と実行条件が重要である。

ウ：逸脱を生んだ運用上の条件まで確認することで実行可能な再発防止策を立てられる。

エ：本人要因だけでは同じ状況で他者も逸脱する可能性がある。

総合解説：ルール違反事故では「なぜ守られなかったか」を組織・工程・設備・監督の観点から分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

予定外の配管ルート変更作業中に事故が発生した。原因分析として重要な視点はどれか。

ア．事故発生後に図面だけ直せば原因分析は完了する。

イ．元の施工計画が安全なら、変更作業も同じ安全性とみなす。

ウ．変更内容が軽微なら危険性評価は不要とする。

エ．変更時に新たな危険を評価したか、作業手順・図面・人員配置・KY・関係者周知を更新したかを確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：図面修正だけでは安全管理プロセスの問題を特定できない。

イ：元計画は変更前条件を前提としている。

ウ：軽微な変更でも作業姿勢や干渉が変わればリスクは変化する。

エ：変更により危険源や作業条件が変わるため、変更管理が機能したか確認する必要がある。

総合解説：作業変更時の事故は、変更内容そのものと「変更を管理する仕組み」の両方を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

事故前に同じ場所で複数のヒヤリハットが報告されていた。原因分析として最も適切な扱いはどれか。

ア．過去報告の内容と対応履歴を確認し、危険の兆候を把握していたのに対策が不十分だった可能性を分析する。

イ．事故ではない報告は原因分析から除外する。

ウ．ヒヤリハットは個人の感覚なので記録を見る必要はない。

エ．事故後に報告書を廃棄し、新しいルールだけ作る。

答え・解説 正答：ア

ア：ヒヤリハットは同種災害の前兆や管理不備を示す重要情報である。

イ：事故未済の情報も予防の観点で価値がある。

ウ：複数報告があれば組織的傾向を分析できる。

エ：過去記録は対策の有効性や未対応問題を確認する資料になる。

総合解説：災害原因分析では、事故時点だけでなく過去の前兆情報と対応状況も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

災害原因として「時間不足」「不適切な脚立」「監督不足」「照明不足」が挙げられた。最も適切な整理方法はどれか。

ア．原因数が多いので全て「不注意」にまとめる。

イ．工程・設備・作業環境・管理の要因に分類し、相互にどう重なって災害へ至ったかを時系列と因果関係で整理する。

ウ．設備要因だけを直し、工程や管理要因は分析しない。

エ．最も目立つ要因1つだけを根本原因として他を除外する。

答え・解説 正答：イ

ア：不注意という抽象語では具体的な改善点が見えない。

イ：複数要因の相互作用を整理することで、抜けの少ない再発防止策につながる。

ウ：一部要因だけでは再発経路が残る可能性がある。

エ：災害は複数要因が連鎖して発生することが多い。

総合解説：原因分析は単一原因探しではなく、災害を成立させた技術・環境・人・管理の要因を体系化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

災害再発防止策を検討する際の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．事故を起こした本人を交代させれば再発防止は完了する。

イ．最初に保護具を増やし、それで不十分なら設備を改善する。

ウ．危険作業そのものの廃止・変更や設備的対策を優先し、残るリスクに管理的対策や保護具を組み合わせる。

エ．教育だけ実施すれば設備改善は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：個人交代では同じ作業条件が残る。

イ：PPEは重要だが残留リスクへの対策であり、危険源低減より優先しない。

ウ：危険源に近い上位対策ほど人の行動に依存しにくく、優先して検討する。

エ：教育だけでは危険設備や不合理な作業方法を除去できない。

総合解説：再発防止は、危険源の除去・低減、工学的対策、管理的対策、保護具を階層的に検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

脚立からの墜落事故後の再発防止策として、最も上位の考え方に近いものはどれか。

ア．脚立使用者へ注意喚起シールを追加する。

イ．墜落した本人へ再教育だけ行う。

ウ．脚立作業を続け、作業時間を短くする。

エ．高所作業そのものを減らせる地上組立や、安定した作業床・昇降設備へ作業方法を変更する。

答え・解説 正答：エ

ア：表示は補助的な管理対策にとどまる。

イ：教育だけでは設備的な墜落危険が残る。

ウ：時間短縮だけで墜落リスクを十分に低減できない。

エ：危険作業の置換や安全な作業設備への変更は、個人の注意に依存しにくい対策である。

総合解説：同種災害を防ぐには、可能なら危険作業をより安全な工法・設備へ置き換える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

吊り荷接触事故の原因が「合図者が複数いて指示が交錯した」ことだった。再発防止策として適切なものはどれか。

- ア．合図者を一人に定め、合図方法と緊急停止合図を標準化し、作業前に関係者で確認する。
- イ．クレーン運転者の経験に任せ、合図手順は作らない。
- ウ．事故当日の班だけに口頭で伝え、手順書は更新しない。
- エ．作業員へ「よく周りを見る」よう注意するだけにする。

答え・解説 正答：ア

- ア：原因に対応した役割と合図の標準化で、同じ混乱を防止できる。
- イ：熟練に依存せず共通ルールを設定する必要がある。
- ウ：他班・将来作業へ水平展開するため文書・教育へ反映する。
- エ：注意だけでは指揮系統の曖昧さが残る。

総合解説：再発防止策は原因と対応し、標準手順へ組み込んで継続的に実行できる形にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

一つの現場で発生した火気作業事故の再発防止を他現場へ展開する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．現場条件に関係なく同一の対策を無検討で強制する。
- イ．事故原因と有効な対策を整理し、同種の火気作業がある現場を抽出してリスクアセスメント・手順・設備を点検する。
- ウ．事故現場だけ対策し、他現場は事故が起きるまで変更しない。
- エ．全現場へ事故写真だけ送付し、対応確認はしない。

答え・解説 正答：イ

- ア：現場条件に応じて有効性を評価する必要がある。
- イ：類似危険を持つ作業へ原因・対策を適用し、現場条件に合わせて確認するのが水平展開である。
- ウ：同じ危険が他現場にあれば予防的に対策する。
- エ：情報共有だけで実施確認がなければ定着しない。

総合解説：事故対策は当該現場だけで閉じず、同じ危険源を持つ作業へ水平展開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079

安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

転倒事故対策として通路ルールを改訂した後、最も適切な確認はどれか。

ア．ルールを掲示した時点で対策完了とする。

イ．事故が1週間起きなければ永久に有効と判断する。

ウ．巡視で通路障害の発生状況を確認し、ヒヤリハット件数や是正件数の推移を見て対策が機能しているか評価する。

エ．違反者を見つけても記録せずその場で注意するだけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：掲示だけでは実行状況が分からない。

イ：短期間の無事故だけでは有効性を十分判断できない。

ウ：運用実態と結果指標を確認して対策の有効性を評価することが重要である。

エ：違反傾向を記録すると仕組みの弱点を分析できる。

総合解説：再発防止策は実施後に監視・評価し、必要なら追加改善するPDCAで定着させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080

安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

災害後に安全教育を追加する際の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．教育時間を長くすれば原因分析は不要である。

イ．事故者だけ教育し、同じ作業を行う他者には展開しない。

ウ．教育を行えば設備的不備はそのままよい。

エ．教育は必要だが、原因が設備・工程・手順にある場合はそれらを改善し、教育を補完策として位置づける。

答え・解説

正答：エ

ア：教育内容は原因分析に基づく必要がある。

イ：類似作業者へ必要な知識・手順を共有する。

ウ：設備的不備を残したままでは同種事故が再発し得る。

エ：教育は行動を支えるが、危険源そのものの除去・低減策の代わりにはならない。

総合解説：教育は重要な管理的対策だが、より上位の技術・設備対策と組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

- 予定外作業で事故が発生したため、再発防止として最も適切な仕組みはどれか。
- ア．作業内容を変更する前に、責任者の承認、危険性の再評価、手順・図面の更新、関係者周知を行う変更管理ルールを導入する。
 - イ．事故者だけに変更作業をさせない。
 - ウ．予定外作業を全面禁止し、緊急時も変更を認めない。
 - エ．変更時は口頭確認だけで作業できるようにする。

答え・解説 正答：ア

ア：変更時に新たなリスクを見落とさない仕組みを標準化することが再発防止につながる。
イ：個人ではなくプロセスを改善する。
ウ：現場では必要な変更もあるため、安全に管理する仕組みが必要である。
エ：口頭だけでは影響評価と情報共有が不足する。
総合解説：変更作業事故の再発防止には「変更すること」を管理する仕組み自体を改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

- 災害発生時に連絡先が分からず救急要請が遅れた。再発防止策として適切なものはどれか。
- ア．責任者だけが連絡先を暗記する。
 - イ．緊急連絡網、現場住所・進入口、役割分担を掲示・携帯し、定期的に訓練して実際に使える状態を確認する。
 - ウ．事故が起きたときにインターネットで連絡先を調べる。
 - エ．連絡網を作成するだけで訓練や更新はしない。

答え・解説 正答：イ

ア：特定者だけへの依存は不在時の弱点となる。
イ：情報を誰でも利用できる形にし、訓練で実効性を確認する対策である。
ウ：緊急時は検索時間を減らす準備が必要である。
エ：人員・連絡先変更を反映し、定期確認する必要がある。
総合解説：緊急時対策は文書の存在ではなく、現場で即時に使える配置・周知・訓練まで含めて整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

感電事故後に「全電動工具を新品へ交換する」案が出た。最も適切な判断はどれか。
ア．費用が高い対策ほど再発防止効果も必ず高い。
イ．工具交換だけ行い、水濡れや仮設電源の状態は確認しない。
ウ．事故原因が工具故障だけかを確認し、電源設備、漏電保護、点検、使用環境も含め、原因に対応する必要十分な対策を選ぶ。
エ．新品にすれば全原因がなくなるので、原因分析は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：費用と有効性は単純には比例しない。
イ：電気事故は設備・環境・保護装置の複合要因を確認する。
ウ：原因と対策を対応させ、過剰・不足のない対策を組み合わせることが重要である。
エ：別の原因が残れば新品でも事故は再発し得る。
総合解説：再発防止は大掛かりな対策を選ぶことなく、確認した原因を確実に断つ対策を選ぶことである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084 安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

事故対策の「完了」を判断する基準として最も適切なものはどれか。
ア．教育資料を配布した時点とする。
イ．対策案を会議で決定した時点とする。
ウ．資材を購入した時点とする。
エ．対策が現場へ実装され、対象者へ周知され、必要な点検で機能を確認し、残留リスクが許容できることを確認した時点とする。

答え・解説 正答：エ

ア：資料配布だけでは理解・実行を確認できない。
イ：決定は開始点であり、現場実装が必要である。
ウ：購入した設備が適切に設置・使用されなければ効果はない。
エ：決定だけでなく実装・周知・機能確認・残留リスク評価まで必要である。
総合解説：再発防止策は、計画から現場実装、有効性確認まで閉じて初めて完了と判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085 安全事例＞現場是正指示 | 難易度：基礎

作業員が不安定な脚立上で両手を使って配管作業をしているのを発見した。現場是正指示として最も適切なものはどれか。

- ア．直ちに作業を止め、安全な作業床等へ変更するまで再開させず、同種作業の有無も確認する。
- イ．作業員に「気を付けて」と声を掛け、そのまま作業を続けさせる。
- ウ．作業終了後のミーティングで注意する。
- エ．短時間で終わるなら今回だけ続行を認める。

答え・解説 正答：ア

- ア：差し迫った危険では作業停止と安全な代替方法の確保を優先する。
 - イ：注意だけでは不安全状態が継続する。
 - ウ：後日の指導では目の前の危険を除去できない。
 - エ：作業時間の短さは墜落危険を容認する理由にならない。
- 総合解説：現場是正では、危険が差し迫っている場合にまず作業を止め、危険源を除去してから再開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086 安全事例＞現場是正指示 | 難易度：基礎

受入検査で仕様と異なるバルブが混在していることを発見した。最も適切な指示はどれか。

- ア．誤使用防止の表示をせず、倉庫の隅へ置くだけにする。
- イ．該当品を使用禁止として識別・隔離し、納品範囲を確認して適合品との交換または正式な変更手続きを行う。
- ウ．取付後に性能確認すればよいので、そのまま配布する。
- エ．外観が似ているため、現場判断で使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：隔離状態が明確でなければ誤使用が起こり得る。
 - イ：誤使用を物理的・識別的に防ぎ、正式に処理するのが適切である。
 - ウ：取り付け前に不適合を管理し、手戻りを防ぐ。
 - エ：仕様不一致品を無断使用してはならない。
- 総合解説：品質是正指示では、不適合品をまず使用系統から外し、処置が確定するまで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087 安全事例＞現場是正指示 | 難易度：基礎

現場是正指示として最も実行性が高いものはどれか。
ア．「なるべく早く片付けること」と指示する。
イ．「現場をもっときれいにすること」と指示する。
ウ．「本日15時までに機械室東側通路の資材を指定保管場所へ移動し、幅員を確保したことを職長が確認して報告する」と指示する。
エ．「安全に気を付けること」と指示する。

答え・解説 正答：ウ

ア：期限と確認方法が不明である。
イ：対象範囲と完了基準が曖昧である。
ウ：対象、場所、期限、完了条件、確認者が明確で、実施と確認が可能である。
エ：具体的な行動に落とし込めない。
総合解説：是正指示は、誰が・何を・どこまで・いつまでに行い、誰が確認するかを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088 安全事例＞現場是正指示 | 難易度：標準

立入禁止柵の不備を是正するよう指示した後の対応として最も適切なものはどれか。
ア．口頭で「直しました」と報告を受けた時点で完了とする。
イ．指示書を発行した時点で管理者の責任は終了する。
ウ．写真がなくても、次回巡視まで確認しない。
エ．実際に柵・表示・出入口管理が是正されたことを現場で確認し、問題なければ是正完了として記録する。

答え・解説 正答：エ

ア：自己申告だけでは完了状態を客観確認できない場合がある。
イ：指示発行は手段であり、危険除去が目的である。
ウ：危険度に応じて速やかに確認する必要がある。
エ：是正指示は実施確認まで行って初めて危険が解消したと判断できる。
総合解説：現場是正は「指示→実施→確認→記録」の閉ループで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

ある班で同じ型式の吊り具の摩耗を発見した。現場是正指示として適切なものはどれか。
ア．該当吊り具を使用停止にし、同時期・同型式の吊り具を全班で点検して、判定基準を満たすものだけ使用させる。
イ．摩耗していても軽い荷だけなら使用を続ける。
ウ．点検結果を記録せず、作業員の記憶で管理する。
エ．発見した班の1本だけ交換し、他班は事故がなければ確認しない。

答え・解説 正答：ア

ア：共通条件を持つ設備へ水平展開し、危険品の使用を防ぐ指示である。
イ：損傷品は用途を限定して再利用するのではなく基準で判定する。
ウ：点検結果を識別・記録することで誤使用を防ぐ。
エ：同じ原因が他の吊り具にも存在する可能性がある。
総合解説：一件の不備から共通原因が疑われる場合は、同種設備・作業へ是正範囲を広げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

工程遅延を理由に、現場で承認なく作業順序を変更していることが判明した。最も適切な指示はどれか。
ア．工程だけ変わるので安全・品質への影響確認は不要とする。
イ．変更作業を一旦確認し、品質・安全・他工種への影響を評価して必要な承認と計画更新を行うまで、影響範囲の施工を止める。
ウ．遅延回復につながるなら、承認手続きは後回しでよいとする。
エ．作業員に任せ、問題が出た場合だけ元工程へ戻す。

答え・解説 正答：イ

ア：作業順序の変更は干渉・隠ぺい・作業競合などを変える。
イ：無管理な変更を止め、影響評価と正式な変更管理へ戻すのが適切である。
ウ：工期理由でも承認・安全・品質管理を省略できない。
エ：問題発生後の事後対応では手戻りや事故を防げない。
総合解説：現場の独自変更を発見した場合、作業を管理可能な状態へ戻し、正式な変更手順で再開させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

通路上に漏水して滑りやすい状態を発見した。適切な是正指示はどれか。

ア．床に「注意」と書いた紙を置くだけで作業を続ける。

イ．漏水源の修理だけ指示し、修理まで通路を開放する。

ウ．まず立入規制・吸水等で転倒危険を直ちに抑え、そのうえで漏水源を特定して恒久修理し、床面と設備の安全を再確認する。

エ．床を拭くだけで漏水源は次回点検まで放置する。

答え・解説 正答：ウ

ア：表示だけでは滑り危険を十分に低減できない。

イ：恒久修理までの間も人を危険にさらさない措置が必要である。

ウ：差し迫った危険への応急措置と、原因を除去する恒久是正を連続して実施する。

エ：原因を残すと再び危険状態が発生する。

総合解説：現場是正では、緊急リスクの抑制と根本原因の恒久是正を区別し、両方を完了させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：応用

複数業者が関係する現場で重要な安全是正を指示した場合、最も適切な管理はどれか。

ア．是正内容は管理者だけが把握し、作業員には知らせない。

イ．期限を設定せず、各社の都合で対応させる。

ウ．口頭で1社に伝えれば、他社への共有は不要である。

エ．是正内容、対象範囲、責任者、期限、確認結果を記録し、影響する関係業者へ共有して再開条件を統一する。

答え・解説 正答：エ

ア：実際に作業する者へ必要な情報を周知する。

イ：期限と確認者がないと是正完了が管理できない。

ウ：一社だけの情報では他社が危険区域へ入る可能性がある。

エ：複数業者が同一危険へ関係する場合、共通の再開条件と責任を明確にする必要がある。

総合解説：重要是正は記録と共有を行い、関係者全体が同じ安全条件で作業を再開できるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

発注者から直接、管工事を請け負った特定建設業者A社が、当該工事について合計5,500万円の下請契約を締結する。現場技術者の配置として最も適切なものはどれか。

- ア．元請A社は、主任技術者ではなく監理技術者を配置する。
- イ．下請代金額にかかわらず、元請は常に主任技術者を配置する。
- ウ．監理技術者は一次下請業者が配置し、元請は現場代理人だけを置けばよい。
- エ．下請業者の数が3社以上の場合に限り監理技術者を配置する。

答え・解説 正答：ア

- ア：管工事で、発注者から直接請け負った特定建設業者が下請代金総額5,000万円以上となる場合は監理技術者を配置する。
 - イ：下請代金額が法定基準以上となる元請特定建設業者には監理技術者が必要である。
 - ウ：監理技術者の配置義務は発注者から直接請け負った元請側の施工体制に関する義務である。
 - エ：判断基準は下請業者数ではなく、契約関係と下請代金総額等である。
- 総合解説：監理技術者の要否は元請かどうか、特定建設業者か、下請代金総額が基準以上かを順に確認して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

多数の者が利用する民間施設の管工事を元請A社が6,000万円で請け負った。下請代金総額は2,000万円である。配置技術者について最も適切なものはどれか。

- ア．請負代金額が5,000万円を超えるため、下請額に関係なく監理技術者を置く。
- イ．監理技術者の基準には達しないため主任技術者を置き、請負代金額が専任基準以上なので原則として専任させる。
- ウ．主任技術者を置けばよいが、専任の要否は下請代金総額だけで決まる。
- エ．現場代理人を置けば、主任技術者は不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：監理技術者の金額判断は元請の請負総額ではなく、主として下請代金総額で行う。
 - イ：下請総額が5,000万円未満なので監理技術者ではなく主任技術者となる。一方、公共性のある施設等の工事で請負代金額4,500万円以上なら原則専任が必要である。
 - ウ：専任の要否は対象工事の性質と請負代金額等で判断する。
 - エ：現場代理人と主任技術者・監理技術者は役割と根拠が異なる。
- 総合解説：「主任か監理か」と「専任か非専任か」は別の判定軸であり、混同しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

一次下請B社が元請A社から6,500万円の管工事を請け負い、その一部を別会社へ下請させる場合のB社の配置技術者について、原則として最も適切なものはどれか。

ア．B社の請負額が5,000万円以上なので必ず監理技術者を配置する。

イ．B社は下請なので、技術者を配置する必要がない。

ウ．B社は発注者から直接請け負った元請ではないため、原則として主任技術者を配置する。

エ．B社は元請A社の監理技術者を自社の主任技術者として兼用できる。

答え・解説 正答：ウ

ア：監理技術者の要否はB社の請負額だけでは決まらず、発注者から直接請け負った元請であることが前提となる。

イ：建設業者は、その請け負った建設工事の適正な施工を確保するため原則として主任技術者等を配置する。

ウ：監理技術者は、発注者から直接工事を請け負った特定建設業者が一定額以上を下請に出す場合に配置する。一次下請であるB社は原則主任技術者となる。

エ：別会社の技術者を自社の配置技術者として形式的に兼用することはできない。

総合解説：施工階層を図にして、発注者から直接請け負った会社か否かを先に確認すると、主任技術者と監理技術者を判断しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

管工事業の建設業許可を受けている会社が、その業種に該当する比較的小額の工事を請け負った。技術者配置について最も適切な考え方はどれか。

ア．500万円未満の工事では、許可業者であっても主任技術者は一切不要である。

イ．工事金額が小さい場合は、発注者が技術者を配置すればよい。

ウ．材料費が工事費の過半を占める場合だけ主任技術者を配置する。

エ．請負額が小さくても、許可を受けた建設業者として原則、工事現場に主任技術者等を配置する。

答え・解説 正答：エ

ア：軽微な工事に関する許可要否と、既に許可を受けた建設業者の技術者配置は同じ問題ではない。

イ：受注した建設業者側に適正施工のための技術者配置義務がある。

ウ：材料費比率は主任技術者の配置要否を決める基準ではない。

エ：主任技術者等の配置義務は、許可業者が請け負う建設工事について適正施工を確保するために課されるもので、小額なら当然に不要となるわけではない。

総合解説：軽微な工事の許可制度と、許可業者による現場技術者配置のルールを分けて理解する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

同一の管工事を、正当な理由なく2,500万円ずつ2契約に分割して請け負うことにより、技術者の専任に関する金額基準を下回るように見せようとしている。適切な判断はどれか。

ア．同一工事を不当に分割した場合は、原則として各契約額を合計して金額要件を判断する。
イ．契約書が2通なら必ず別工事として扱い、それぞれの額だけで判断する。
ウ．分割契約の場合は、金額要件そのものが適用されない。
エ．元請が任意に選んだ高い方の契約額だけを用いる。

答え・解説 正答：ア

ア：金額要件の潜脱を防ぐため、同一工事を複数契約に分割した場合は、正当な理由がある場合を除き合計額で扱う考え方が採られる。
イ：形式的な契約数だけでなく、同一工事が、正当な分割理由があるかをみる。
ウ：分割したことを理由に法定の金額要件を回避することはできない。
エ：同一工事の不当な分割では、原則として合計額で判断する。
総合解説：契約の形式ではなく工事の実体をみて金額要件を判断するのが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

主任技術者又は監理技術者の職務として最も適切なものはどれか。

ア．請負代金の支払処理だけを担当し、施工技術には関与しない。
イ．施工計画の作成・工程管理・品質管理その他の技術上の管理と、施工従事者への技術上の指導監督を行う。
ウ．発注者との営業交渉だけを担当する。
エ．作業員の勤怠入力だけを行えば足りる。

答え・解説 正答：イ

ア：支払事務だけでは配置技術者の法定の技術上の職務を果たしていない。
イ：配置技術者は名義だけ置くのではなく、施工計画、工程、品質等を技術的に管理し、施工者を指導監督する役割を負う。
ウ：営業交渉は配置技術者の中心的職務ではない。
エ：勤怠管理のみでは施工計画、工程、品質等の技術上の管理を満たさない。
総合解説：主任技術者・監理技術者は、工事の適正施工を担保するため現場の技術管理に実質的に関与する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

配置された主任技術者が月に一度だけ署名のため来場し、施工計画や工程・品質の判断はすべて別会社の担当者が行っている。最も適切な評価はどれか。

ア．氏名が施工体系図に記載されていれば、実際の関与は不要である。

イ．月1回以上来場していれば、職務内容にかかわらず適正である。

ウ．主任技術者が実質的に技術上の管理を行っておらず、適正な配置とはいえない。

エ．別会社の担当者が経験豊富なら、主任技術者は不要となる。

答え・解説 正答：ウ

ア：書類への記載だけで法定の職務を代替できない。

イ：回数だけではなく、施工計画・工程・品質等への実質関与が必要である。

ウ：配置技術者には工事の技術上の管理を実際に行うことが求められ、名義だけの配置では目的を満たさない。

エ：受注した建設業者自身が適正な技術者を配置しなければならない。

総合解説：事例問題では「名前があるか」ではなく「誰が実際に技術上の管理をしているか」を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

管工事の主任技術者を選任する際の手順として最も適切なものはどれか。

ア．施工経験が長ければ、工事業種に関係なく任意の国家資格で主任技術者にできる。

イ．会社の役職が課長以上なら、資格要件を確認しなくても主任技術者にできる。

ウ．元請が承認すれば、下請会社は資格要件を満たさない者を主任技術者にできる。

エ．施工する建設工事の業種を特定し、その業種について主任技術者となれる資格・実務経験等の要件を満たす者から選任する。

答え・解説 正答：エ

ア：主任技術者の要件は施工する建設業の種類ごとに確認する。

イ：役職名は法定の技術者資格要件の代替にならない。

ウ：元請の承認によって法定の資格要件を免除することはできない。

エ：技術者資格は工事業種に対応して確認する必要があり、単に他業種の資格を持つだけでは足りない。

総合解説：技術者配置では、工事業種、会社の立場、資格要件、専任要否を順に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

発注者から直接管工事を請け負った特定建設業者が、当該工事で締結した下請契約の総額がちょうど5,000万円となった。監理技術者の配置判断として適切なものはどれか。

ア．「5,000万円以上」に該当するため、監理技術者の配置対象となる。

イ．5,000万円を超えた場合だけ対象なので、ちょうど5,000万円なら主任技術者でよい。

ウ．下請契約が複数の場合は最大1社の金額だけで判断する。

エ．監理技術者の要否は元請の請負額だけで決まり、下請総額は関係ない。

答え・解説 正答：ア

ア：現行の管工事等の基準は5,000万円以上であり、ちょうど基準額の場合も含まれる。

イ：「以上」は基準額そのものを含む。

ウ：複数の下請契約がある場合は原則としてその総額で判断する。

エ：監理技術者の配置要否では下請代金総額が重要な判定要素である。

総合解説：法令の金額問題では「以上・超える」の違いと、単独額か総額かを正確に読む必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

公共性のある施設の管工事で、元請の請負代金額が4,500万円である。技術者の専任に関する原則として最も適切なものはどれか。

ア．4,500万円は基準を超えていないので、専任は不要である。

イ．請負代金額が専任基準以上に当たるため、主任技術者又は監理技術者は原則として工事現場ごとに専任する。

ウ．専任が必要なのは建築一式工事だけである。

エ．下請を一切使わなければ、請負額にかかわらず専任は不要である。

答え・解説 正答：イ

ア：「4,500万円以上」であり、基準額そのものを含む。

イ：管工事など建築一式以外では、公共性のある施設等の工事で4,500万円以上が専任基準となる。

ウ：管工事を含む他業種にも所定の専任基準がある。

エ：専任要否は下請使用の有無だけではなく、対象工事と請負代金額等で判断する。

総合解説：監理技術者の要否を決める下請総額基準と、技術者の専任を決める請負代金額基準を切り分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

公共工事を発注者から直接請け負った元請建設業者が、工事の一部について下請契約を締結した。施工体制台帳について最も適切なものはどれか。

- ア．下請代金総額が5,000万円以上になるまで施工体制台帳は不要である。
- イ．下請業者が自主的に台帳を作成すれば、元請は作成しなくてよい。
- ウ．公共工事では、元請が下請契約を締結した時点で施工体制台帳を作成する。
- エ．施工体系図だけ作れば、施工体制台帳は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：5,000万円基準は民間工事の特定建設業者等の判断であり、公共工事の台帳作成は下請契約締結時点で必要となる。

イ：施工体制台帳の作成義務者は発注者から直接請け負った元請である。

ウ：公共工事では、下請金額の大小にかかわらず、下請契約を締結した元請に施工体制台帳の作成等が求められる。

エ：台帳と施工体系図はそれぞれ所定の作成・取扱いが求められる。

総合解説：公共工事と民間工事では施工体制台帳の作成トリガーが異なるため、まず工事区分を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

民間の管工事を発注者から直接請け負った特定建設業者A社の下請代金総額が4,900万円である。法令上の施工体制台帳の作成義務について最も適切なものはどれか。

- ア．4,500万円以上なので必ず作成義務がある。
- イ．下請契約を1件でも結べば、民間工事でも金額に関係なく必ず法定作成義務がある。
- ウ．元請が一般建設業許可であれば、5,000万円以上の下請契約を自由に締結してよい。
- エ．現行の5,000万円以上という金額基準には達していないため、法令上の当該金額要件による作成義務は生じない。

答え・解説 正答：エ

ア：4,500万円は旧金額基準であり、現行の管工事等は5,000万円以上である。

イ：それは公共工事の取扱いと混同している。民間工事では所定の金額要件がある。

ウ：一定額以上の下請を行う元請には特定建設業許可等の要件が関係する。

エ：民間の管工事では、元請特定建設業者の下請代金総額が5,000万円以上となる場合が施工体制台帳作成の基準となる。

総合解説：法規事例では、旧金額基準を混ぜず、2026年時点の5,000万円基準で判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

施工体系図を作成する主な目的として最も適切なものはどれか。

ア．工事に関係する建設業者、施工分担、配置技術者等を見える化し、責任関係と施工体制を把握できるようにする。

イ．工事原価だけを発注者に報告するために作成する。

ウ．完成後の設備機器の保証期間だけを一覧にする。

エ．元請会社の組織図をそのまま掲示するために作成する。

答え・解説 正答：ア

ア：施工体系図は施工の分担関係や技術者配置等を明示し、関係者が施工体制を把握するための資料である。

イ：工事原価だけを示す資料ではない。

ウ：保証情報を整理することが主目的ではない。

エ：会社内部の組織図ではなく、当該工事の施工分担関係を示す。

総合解説：施工体系図は「誰が、どの工事を、どの技術者の管理で施工するか」を現場で把握するための図である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

施工体制台帳を作成する工事で、一次下請B社が二次下請C社と新たに契約した。B社の対応として最も適切なものはどれか。

ア．二次下請はB社内部の問題なので、元請への通知は不要である。

イ．再下請負通知書等により必要事項を元請へ通知し、元請が施工体制台帳・施工体系図へ反映できるようにする。

ウ．C社が発注者へ直接通知すれば、元請への通知は不要である。

エ．契約金額だけ元請へ伝え、工事内容や技術者情報は不要である。

答え・解説 正答：イ

ア：施工体制台帳は工事全体の下請関係を把握するため、再下請関係も必要情報となる。

イ：下位の下請関係は元請が自動的に把握できないため、再下請負通知によって施工体制情報を集約する。

ウ：施工体制の情報は所定の経路で元請へ集約する。

エ：施工体制台帳等には契約金額以外にも工事内容、工期、技術者等の情報が必要となる。

総合解説：施工体制情報は元請に集約し、下請階層の変更も台帳・体系図に反映させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

施工体制台帳等の対象者の考え方として最も適切なものはどれか。
ア．現場に一度でも入場した会社はすべて建設業者として台帳に記載する。
イ．資材納入業者は必ず一次下請として施工体系図に記載する。
ウ．建設工事の完成を請け負う建設業者は対象となり得るが、単なる資材納入業者や警備業者など建設工事を請け負っていない者は法令上の記載対象とは別に扱う。
エ．警備会社は必ず管工事の主任技術者を配置して台帳に記載する。

答え・解説 正答：ウ

ア：現場入場の有無だけではなく、建設工事の請負関係を見る。
イ：単なる資材納入は建設工事の請負とは異なる。
ウ：国土交通省の作成例では、資材業者・警備業者等で建設工事の完成を請け負っていない者は法令上の記載義務の対象外とされる。
エ：警備業務は管工事の建設請負とは異なる。
総合解説：施工体制台帳では、現場に関わる全事業者を一律に扱うのではなく、建設工事の請負関係を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

工事途中で一次下請会社が変更され、施工分担と担当技術者も変わった。元請の対応として最も適切なものはどれか。
ア．工事着手時の台帳を保存していれば、途中変更は反映しなくてよい。
イ．変更は竣工後にまとめて追記すればよい。
ウ．施工体系図だけ更新し、施工体制台帳は変更しない。
エ．変更内容を確認し、施工体制台帳・施工体系図等を速やかに更新して、現場の実際の施工体制と一致させる。

答え・解説 正答：エ

ア：古い情報のままでは実際の責任関係や技術者配置を確認できない。
イ：施工中に施工体制を把握できる状態を維持することが重要である。
ウ：関連する台帳・体系図等を整合させて管理する必要がある。
エ：施工体制関係書類は作成時だけでなく、施工体制の変更を反映して現況と一致させる必要がある。
総合解説：施工体制の変更は、契約、担当工事、技術者、台帳・体系図をセットで更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

公共工事における施工体系図の掲示について最も適切なものはどれか。

ア．工事関係者が見やすい場所に加え、公衆が見やすい場所にも掲示する。

イ．現場事務所の施錠した書庫内だけに保管すればよい。

ウ．元請本社の会議室に掲示すれば現場掲示は不要である。

エ．施工体系図は発注者だけが閲覧する非公開資料である。

答え・解説 正答：ア

ア：公共工事では、施工体系図を工事関係者だけでなく公衆が見やすい場所にも掲げる取扱いとなる。

イ：公共工事では掲示が求められ、書庫保管だけでは足りない。

ウ：当該工事現場で施工体制を確認できるようにする必要がある。

エ：公共工事では公衆から見える場所への掲示も求められる。

総合解説：公共工事は施工体制の透明性確保がより強く求められるため、施工体系図の掲示場所にも注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

施工体制台帳の管理方法として最も適切なものはどれか。

ア．元請本社にだけ保存し、現場には一切置かない。

イ．対象工事について工事現場ごとに備え置き、施工体制の確認に利用できるようにする。

ウ．発注者へ提出したら元請側では保管しなくてよい。

エ．工事完成後に初めて作成して保存すればよい。

答え・解説 正答：イ

ア：工事現場ごとに備え置くことが求められる。

イ：建設業法上、施工体制台帳は対象となる建設工事について工事現場ごとに備え置くことが基本である。

ウ：発注者への提出等とは別に、元請側の施工体制管理が必要である。

エ：施工中の適正な施工体制確保のために作成・管理する資料である。

総合解説：施工体制台帳は完成後の記録だけではなく、施工中の体制管理に使う現場管理資料である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

施工体制台帳等を電子的に作成する場合の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．電子システムを使う場合は、法令上必要な記載事項を省略してよい。

イ．施工体制台帳は必ず手書きでなければならない。

ウ．法令上必要な記載事項を満たし、内容が確認できるように管理すれば、CCUS等を活用して作成することも可能である。

エ．CCUSに登録していれば、実際の下請変更を台帳へ反映しなくてよい。

答え・解説 正答：ウ

ア：電子化しても必要事項そのものが不要になるわけではない。

イ：電子的な作成も可能である。

ウ：国土交通省はCCUS等を用いた施工体制台帳等の作成が可能である旨を示している。重要なのは必要事項と適切な管理である。

エ：システム利用の有無にかかわらず、実態と一致する情報管理が必要である。

総合解説：電子化は作成手段の合理化であり、法定事項の確認や施工体制の最新化という目的は変わらない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

公共工事で施工体制台帳を作成した元請の対応として最も適切なものはどれか。

ア．施工体制台帳は社内文書なので発注者へは一切提出しない。

イ．施工体系図だけ発注者へ郵送すれば、台帳の写しは不要である。

ウ．竣工後に提出すればよく、施工中の提出は不要である。

エ．施工体制台帳の写しを発注者へ提出し、施工体系図を所定の場所に掲示する。

答え・解説 正答：エ

ア：公共工事では発注者への提出が必要となる。

イ：台帳の写しと施工体系図はそれぞれ必要な取扱いがある。

ウ：施工中の適正な施工体制把握のための制度である。

エ：公共工事では施工体制台帳の写しの発注者提出や施工体系図の掲示が求められる。

総合解説：公共工事では、元請内だけでなく発注者・公衆にも施工体制を確認できる仕組みが設けられている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

施工体制台帳を作成する工事で、元請が下請業者に対して行う手続として適切なものはどれか。
ア．再下請負通知が必要となることを現場で周知し、下請関係が生じた場合に必要事項が元請へ届くようにする。
イ．下請関係は元請が推測して台帳へ記載し、下請からの情報提供は求めない。
ウ．再下請負通知は発注者が各下請へ直接求める。
エ．再下請負通知は工事完成後だけ提出させる。

答え・解説 正答：ア

ア：元請は施工に携わる下請関係を把握するため、再下請負通知の提出を促し、必要情報を集約する。
イ：正確な施工体制把握には下請からの必要情報が不可欠である。
ウ：施工体制台帳作成のための情報は元請へ集約する。
エ：施工中の体制を把握するため、下請関係が生じた段階で通知させる。
総合解説：施工体制台帳の精度は、元請が下請階層から必要情報を速やかに集められるかに左右される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

二次下請会社が追加されることになったが、施工開始日が迫っている。元請の対応として最も適切なものはどれか。
ア．施工開始後に問題が起きた場合だけ、会社名を台帳へ追加する。
イ．契約・資格・担当工事等を確認し、再下請負通知を受けたうえで台帳・体系図を更新し、必要な手続を整えてから施工体制に組み込む。
ウ．口頭で会社名を聞けば十分で、契約や技術者情報の確認は不要である。
エ．納期優先のため、元請への通知なしで二次下請を先行入場させる。

答え・解説 正答：イ

ア：事後対応では施工中の責任関係を適切に把握できない。
イ：施工開始を急ぐ場合でも、下請関係と技術者情報を確認し、施工体制書類を実態に合わせる必要がある。
ウ：施工体制の確認には工事内容・契約・技術者等の情報が必要である。
エ：適正な施工体制確認を行わずに施工へ入れるべきではない。
総合解説：手続問題でも、書類を作ること自体ではなく、施工開始前に責任関係と適格性を確認することが目的である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

施工図作成中に、図面と特記仕様の内容が矛盾していることが判明した。公共建築工事標準仕様書に沿った対応として最も適切なものはどれか。

ア．施工者が施工しやすい方を任意に採用し、完成後に報告する。
イ．図面は常に標準仕様書より優先されるので、他資料の確認は不要である。
ウ．設計図書の適用順位を確認し、それでも判断できない場合は監督職員と協議して処理する。
エ．矛盾があれば工事を全面中止し、契約を解除する。

答え・解説 正答：ウ

ア：設計意図や契約条件を施工者が一方的に変更してはならない。
イ：適用順位は質問回答書、現場説明書、特記仕様、図面、標準仕様書の順を基本とする。
ウ：設計図書は相互補完し、相違がある場合は所定の優先順位に従い、解決できない疑義は協議して処理する。
エ：まず適用順位の確認と監督職員との協議で解決を図る。
総合解説：複合事例では、技術的に施工できるだけでなく、設計図書の優先順位と協議手続まで含めて判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

設計図書に定められた配管試験を実施し、試験が完了した。標準仕様書上の手続として適切なものはどれか。

ア．合格した場合は記録を残さず、口頭報告だけでよい。
イ．試験成績書は施工者の社内資料なので提出してはならない。
ウ．試験は竣工後にまとめて実施すればよく、施工中の確認は不要である。
エ．試験結果を記録し、試験成績書を監督職員へ提出する。

答え・解説 正答：エ

ア：合格・不合格にかかわらず、試験結果を記録として残すことが重要である。
イ：標準仕様書で監督職員への提出が求められる。
ウ：試験は施工段階で適切な時期に実施し、適合性を確認する。
エ：標準仕様書では、施工の検査に伴う試験が完了したとき、その試験成績書を監督職員へ提出する。
総合解説：試験は「実施した」だけで終わらず、結果の記録・提出までが品質証拠となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

総合試運転調整を行う前の手続として最も適切なものはどれか。

- ア．調整方法、時期、日程、人員、安全対策等を含む総合試運転調整計画書を事前に提出し、必要な承諾を受ける。
- イ．試運転当日に口頭で役割分担を決めればよい。
- ウ．各機器の個別調整を行わず、最初から総合運転だけ実施する。
- エ．安全対策は試運転計画書には含めず、作業員個人の判断に任せる。

答え・解説 正答：ア

- ア：総合試運転は設備全体を扱うため、方法・時期・人員・安全対策等を事前に計画して関係者と共有する。
 - イ：設備間連携や安全確保のため、事前計画が必要である。
 - ウ：総合試運転に先立ち各機器の個別運転調整を行う。
 - エ：試運転には動力・圧力・回転体等の危険があり、安全対策を計画へ含める必要がある。
- 総合解説：総合試運転は、個別調整→計画に基づく総合確認→記録という流れで進める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

天井内配管を施工し、翌日に天井を閉じる予定である。接合部や支持状況が隠蔽後に確認できなくなる場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．天井を先に閉じ、問題があれば後で開口して確認する。
- イ．隠蔽前に必要な検査・写真・記録を行い、設計図書や監督職員の指示に従って確認を完了してから閉じる。
- ウ．完成後の外観が良ければ、天井内の写真や記録は不要である。
- エ．下請業者が自己確認したとえば、元請側の確認は一切不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：手戻りと確認漏れを招くため、隠蔽前確認が原則である。
 - イ：後から確認できない部分は隠蔽前に適合性を確認し、記録を残すことが施工品質の証拠となる。
 - ウ：隠蔽部の品質は完成後の外観だけでは確認できない。
 - エ：品質管理上、必要な検査・記録の確認を元請側でも行う必要がある。
- 総合解説：隠蔽部分は「後で見えない」ことを前提に、検査時期と記録方法を施工手順に組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

現場条件により配管ルートを変更すれば施工しやすいことが分かった。設計図書と異なる変更を行う際の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．施工会社が効率的と判断すれば、承諾前でも恒久変更してよい。
- イ．変更内容は作業員だけに口頭で伝え、施工図は元のままにする。
- ウ．干渉・性能・保守性等を確認し、必要な協議・承諾手続を行ったうえで変更内容を施工図や記録へ反映する。
- エ．変更後の性能確認は不要で、納まりだけ確認すればよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：設計図書と異なる変更は所定の協議・承諾を経て行う。
 - イ：施工図・記録を実施工と一致させないと、検査・維持管理で問題になる。
 - ウ：現場都合だけで設計内容を変更せず、技術的影響と契約上の手続を確認して正式に反映する必要がある。
 - エ：配管ルート変更は圧力損失、勾配、保守性などへ影響し得る。
- 総合解説：現場変更は「技術確認→協議・承諾→施工→図書更新」の順で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

工事完成時の引渡しに向けた手続として最も適切なものはどれか。

- ア．設備が運転できれば、試験記録や完成図書は後日作成でよい。
- イ．施工中の変更は完成図へ反映せず、当初図面をそのまま渡す。
- ウ．不適合の是正記録は問題を残すので廃棄する。
- エ．試験・調整結果、施工記録、実際の施工内容を反映した完成図書等を整理し、必要な確認・提出を経て引渡しに備える。

答え・解説 正答：エ

- ア：引渡し時に品質証拠と維持管理情報が揃っていることが重要である。
 - イ：完成図書は実際の施工内容と一致させる必要がある。
 - ウ：不適合と是正の履歴は品質管理上重要な記録である。
 - エ：完成時は設備が動くだけでなく、施工・試験・調整の記録と完成図書を整合させて引渡すことが重要である。
- 総合解説：完成・引渡しでは、設備の機能、検査記録、完成図書の三者を一致させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

次の施工体制表を読む。
A社：発注者から直接受注、管工事、下請総額5,600万円
B社：A社の一次下請、請負額3,200万円
C社：A社の一次下請、請負額2,400万円
現行制度上、最も適切な判断はどれか。
ア．A社は監理技術者を配置する対象となり、B社・C社はそれぞれ原則として主任技術者を配置する。
イ．A社・B社・C社のすべてが監理技術者を配置する。
ウ．A社は主任技術者、B社だけ監理技術者を配置する。
エ．A社だけ技術者を配置し、B社・C社は配置不要である。

答え・解説 正答：ア

ア：A社は元請特定建設業者として下請総額が5,000万円以上となるため監理技術者対象となる。B社・C社は発注者から直接請け負った元請ではないため原則主任技術者である。
イ：監理技術者は発注者から直接請け負った元請の一定条件が必要となる。
ウ：B社は元請ではなく、A社の下請総額が基準以上である。
エ：下請建設業者にも原則として主任技術者等の配置が必要である。
総合解説：図表読解では「契約階層」と「金額」を同時に読む。金額だけ見て監理技術者を決めない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

配管系統の試験基準を「試験圧力0.75MPa、30分保持し圧力低下・漏れがないこと」とする。記録は次のとおり。
系統A：0.75MPa、30分、低下なし
系統B：0.75MPa、20分、低下なし
系統C：0.75MPa、30分、継手ににじみあり
最も適切な判定はどれか。
ア．圧力が0.75MPaなら全系統合格である。
イ．Aのみが記載された基準を満たし、Bは保持時間不足、Cは漏れがあるため是正・再試験が必要である。
ウ．AとBが合格で、Cだけ不合格である。
エ．AとCが合格で、Bだけ不合格である。

答え・解説 正答：イ

ア：保持時間と漏れの有無も判定条件である。
イ：合否は圧力だけでなく、保持時間と漏れの有無を全て満たす必要がある。
ウ：Bは30分保持という条件を満たしていない。
エ：Cは漏れが確認されており不合格である。
総合解説：図表の試験問題では、複数の合格条件をAND条件として確認し、一つでも欠ければ合格扱いにしない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

工程実績は次のとおりである。
作業A：計画100%、実績100%、後続の余裕3日
作業B：計画80%、実績55%、後続の余裕0日
作業C：計画70%、実績60%、後続の余裕5日
遅延対策の優先順位として最も適切なものはどれか。
ア．実績100%の作業Aを最優先で増員する。
イ．余裕が最も大きい作業Cだけを優先して短縮する。
ウ．まず作業Bの遅延原因を分析し、必要な増員・手順見直し・後続調整等を検討する。
エ．全作業を同じ割合で増員し、原因分析は行わない。

答え・解説

正答：ウ

ア：作業Aは完了しており遅延対策の対象ではない。
イ：余裕が大きい作業より、余裕0日の遅延作業の影響が大きい。
ウ：作業Bは進捗差が大きく、余裕0日で後続工程へ直結するため優先して対策する必要がある。
エ：工程への影響度と遅延原因に応じた対策が必要である。
総合解説：単なる遅れ幅だけでなく、工程余裕と後続影響を組み合わせで優先順位を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

支持金物の施工間隔について、設計上の上限を2.0mとする。測定記録は次のとおり。
区間A：1.8m
区間B：2.0m
区間C：2.2m
最も適切な判定はどれか。
ア．2.0mは上限値と同じなのでBも不適合である。
イ．3区間の平均が2.0mなので全て合格である。
ウ．Cだけ測定値を記録から削除すれば合格になる。
エ．AとBは上限以内、Cは上限を超えるため不適合として是正対象とする。

答え・解説

正答：エ

ア：上限以内という条件では上限値そのものは許容される。
イ：個々の施工箇所には上限規定がある場合、平均値だけで超過箇所を相殺できない。
ウ：不適合な測定結果は記録を消すのではなく、是正し再確認する。
エ：「上限2.0m」は2.0mを含み、それを超える2.2mは不適合となる。
総合解説：規格値の判定では、平均値でよいのか個別値で判定するのかを条件文から読み分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

ポンプ試運転記録は次のとおりである。
設計流量：120L/min、実測118L/min
設計揚程：25m、実測25m
軸受温度：通常範囲
異常振動：あり
最も適切な対応はどれか。
ア．流量・揚程が概ね得られていても、異常振動の原因を調査し、芯出し・固定・配管荷重等を確認して是正後に再確認する。
イ．流量と揚程が設計値に近いので、そのまま合格とする。
ウ．流量をさらに上げれば振動原因の調査は不要である。
エ．軸受温度が正常なら振動記録を削除する。

答え・解説 正答：ア

ア：性能値だけでなく、異常振動という設備健全性の問題を解消してから合格判定する必要がある。
イ：異常振動を残したまま引渡すべきではない。
ウ：振動は芯ずれ、支持、配管荷重等の原因を調査すべきである。
エ：測定記録を削除せず、異常原因を是正する。
総合解説：試運転表は性能だけでなく、振動・騒音・温度・漏れ等の健全性情報も合わせて判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

現場ではリスク点を「重篤度×発生可能性」で評価する。
作業A：4×2
作業B：3×4
作業C：2×3
作業D：1×4
優先して低減措置を検討すべき作業はどれか。
ア．作業Aである。
イ．作業Bである。
ウ．作業Cである。
エ．作業Dである。

答え・解説 正答：イ

ア：作業Aの点数は8で、作業Bの12より低い。
イ：作業Bは3×4=12で最も高い。作業Aは8、Cは6、Dは4である。
ウ：作業Cの点数は6である。
エ：作業Dの点数は4である。
総合解説：問題文で評価式が与えられている場合は、その式に従って比較する。実務では点数だけでなく重大災害につながる危険も別途確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

吹出口の設計風量に対し、許容範囲を±10%とする。
吹出口A：設計500m3/h、実測480m3/h
吹出口B：設計600m3/h、実測525m3/h
吹出口C：設計400m3/h、実測420m3/h
最も適切な判定はどれか。

- ア．Aは480m3/hで下限450m3/h以上だが、設計値より少ないという理由だけで不合格とする。
- イ．Cは420m3/hで上限440m3/h未満だが、設計値を超過しているという理由だけで不合格とする。
- ウ．Bは設計値600m3/hに対して525m3/hで-12.5%となるため許容範囲外であり、系統抵抗等を確認して再調整する。
- エ．各吹出口の個別判定はせず、3か所の平均風量が近ければ全て合格とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：Aの差は20/500=4%で許容内である。
イ：Cの差は20/400=5%で許容内である。
ウ：Aは-4%、Cは+5%で許容内。Bは-12.5%で±10%を外れる。
エ：各吹出口に許容範囲が設定されているため、個別に判定する。
総合解説：空調の試運転では、設計値との偏差を個々に確認し、系統バランスを調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

工事現場の自主管理基準を次のように定めた。
騒音：80dB以下、濁水pH：6.0～8.5、敷地外粉じん：目視飛散なし。
測定結果は、騒音78dB、pH8.9、粉じん飛散なしであった。最も適切な対応はどれか。
ア．騒音が80dB未満なので全項目合格とする。
イ．pHは数値が大きいほど水質が良いので、そのまま放流する。
ウ．粉じんがないので、濁水の測定値を記録から除外する。
エ．濁水のpHが自主基準を外れているため、排水処理を見直し、基準内を確認してから放流する。

答え・解説 正答：エ

ア：評価項目は複数あり、pHが基準外である。
イ：pHには適正範囲があり、大きければよいわけではない。
ウ：基準外結果を削除せず、是正と再確認を行う。
エ：騒音と粉じんは基準内だが、pH8.9は上限8.5を超えている。基準外の項目を是正する。
総合解説：複数の環境管理値がある場合、全項目を個別に判定し、基準外項目を是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

機器搬入条件は次のとおり。
機器A：重量2.0t、必要設置日10日、保管不可
機器B：重量0.5t、必要設置日15日、屋内保管可
搬入口：大型車使用可能日は9日と10日のみ
最も適切な計画はどれか。
ア．機器Aは大型車使用可能日と設置日を合わせて10日に直接搬入し、機器Bは工程と保管条件を見て別途搬入する。
イ．機器Aを1日に搬入し、屋外に9日間仮置きする。
ウ．機器Aは15日に搬入し、搬入口の使用条件は無視する。
エ．機器Bを優先して10日に大型車で搬入し、機器Aは後で人力搬入する。

答え・解説 正答：ア

ア：保管不可の重量機器Aは、搬入可能日と設置日を合わせて直接据付に結び付けるのが合理的である。
イ：保管不可という条件に反する。
ウ：大型車使用可能日が9日・10日に限定されている。
エ：重量2.0tの機器Aを人力搬入する計画は現実的でなく、搬入口条件を優先すべきである。
総合解説：搬入計画は重量、搬入口、保管可否、設置時期を同時に整理して決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

作業者情報は次のとおり。
甲：管工事の主任技術者要件を満たす、玉掛け資格なし
乙：玉掛け資格あり、主任技術者要件なし
丙：両方の要件を満たす
当日は現場の主任技術者配置と玉掛け作業が必要である。最も適切な配置はどれか。
ア．甲に玉掛け作業も行わせれば、主任技術者要件を満たすので問題ない。
イ．主任技術者には甲又は丙を配置し、玉掛け作業には乙又は丙の有資格者を配置する。
ウ．乙を主任技術者にすれば、玉掛け資格があるので足りる。
エ．資格は会社単位で保有すればよく、実際の作業者個人の要件は確認しなくてよい。

答え・解説 正答：イ

ア：主任技術者要件と玉掛け作業の資格は別である。
イ：役割ごとの資格要件を分けて確認し、それぞれ満たす者を配置する。丙が両方を担う場合も実際に職務を適切に遂行できる体制が前提となる。
ウ：玉掛け資格は管工事の主任技術者要件の代替にならない。
エ：就業制限等がある作業では実際に従事する者の資格・技能確認が必要である。
総合解説：複合問題では「会社が資格を持つ」ではなく、「各役割を誰が担い、その人が要件を満たすか」を表から確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

次の3工事について施工体制台帳の法令上の作成判断を行う。
工事A：公共工事、下請契約あり、下請総額800万円
工事B：民間管工事、元請特定建設業者、下請総額5,200万円
工事C：民間管工事、元請特定建設業者、下請総額3,000万円
最も適切な組合せはどれか。
ア．公共工事Aだけが施工体制台帳の作成対象となり、民間工事Bは金額にかかわらず対象外である。
イ．民間工事Bだけが作成対象となり、公共工事Aは下請総額が少額なので対象外である。
ウ．公共工事Aは下請契約があるため対象、民間工事Bは下請総額5,200万円のため対象で、Cは記載条件だけでは金額要件による対象ではない。
エ．A・B・Cは工事種別や下請総額を問わず、すべて施工体制台帳の作成対象である。

答え・解説 正答：ウ

ア：Bは民間工事でも下請総額が5,000万円以上で作成対象となる。
イ：公共工事Aも下請契約を締結した時点で作成対象となる。
ウ：公共工事Aは下請契約があれば作成対象。民間Bは5,000万円以上なので対象。Cは5,000万円未満である。
エ：Cは記載条件では民間工事の金額基準に達していない。
総合解説：台帳作成判断は、公共か民間か、元請の許可区分、下請契約の有無・総額を順に整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132 複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

給水ポンプの不具合履歴は次のとおり。
試運転1回目：異常振動あり、固定ボルト増締めのみ実施
試運転2回目：一時改善後に再発
点検：芯ずれと配管からの外力を確認
最も適切な原因分析はどれか。
ア．1回目に増締めしたので原因分析は完了している。
イ．振動は機器の性能に関係しないので無視する。
ウ．試運転記録を削除して、新しい記録だけ残す。
エ．固定ボルトの緩みだけを原因とせず、芯ずれと配管荷重を根本原因候補として是正し、再試運転で確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：再発しているため、増締めだけでは根本原因を除去できていない。
イ：異常振動は故障・寿命低下・騒音等につながるため原因確認が必要である。
ウ：不具合履歴は原因分析とは正確に重要な証拠となる。
エ：一時的な増締めで再発し、その後に芯ずれと配管外力が確認されているため、再発を生む根本要因を是正する必要がある。
総合解説：時系列表では「対策後に再発したか」を見ることで、応急処置と根本是正を区別できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

営業中の病院で給水管を更新する。条件は 断水は22時～5時のみ、 病棟への給水停止は最大30分、 新設管は使用前に試験・洗浄を完了、 避難経路を塞がない、である。最も適切な施工計画はどれか。

ア．事前に新設管を可能な範囲まで施工・試験・洗浄し、夜間に切替部分だけを短時間で接続し、仮設給水と避難経路を確保して復旧確認する。

イ．22時から新設管の全施工を開始し、完成するまで病棟を断水する。

ウ．断水時間を短くするため、試験と洗浄を省略して直ちに使用する。

エ．資材を避難通路に仮置きして作業場所を広く確保する。

0134 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

既設冷温水配管の切替工事で、 停止可能時間4時間、 溶接部は所定の検査が必要、 切替後は漏れ確認を行う、 翌朝から空調運転が必要、という条件がある。最も適切な計画はどれか。

ア．接合後の検査を翌日に回し、まず空調運転を開始する。

イ．事前に加工・寸法確認を済ませ、停止時間内の作業を切断・接合・必要検査・復旧確認に絞り、検査時間を含めた工程を逆算する。

ウ．4時間を超えそうなら、作業員の判断で検査項目を減らす。

エ．寸法確認は現場切断後に初めて行う。

答え・解説 正答：ア

ア：長い工程を事前施工へ移し、断水時間内は切替だけに限定することで、給水停止・品質・安全の全条件を満たしやすい。

イ：病棟停止30分という条件を満たしにくい。

ウ：品質・衛生条件を満たさない。

エ：避難経路を塞がないという条件に反する。

総合解説：条件整理では、各制約を施工前・切替中・復旧後の工程へ割り付けると解きやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

答え・解説 正答：イ

ア：不適合を確認しないまま使用開始することになる。

イ：停止時間に対して、品質確認を削るのではなく、事前作業を増やして本番作業を短縮するのが基本である。

ウ：検査項目を任意に省略してはならない。

エ：停止時間を浪費し、切替失敗のリスクが高くなる。

総合解説：短時間工事では「品質確認を削る」のではなく「停止前にできる作業を前倒しする」ことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135

複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

屋上へ空調機を揚重する。条件は 機器重量2.8t、 吊上げ経路の一部が歩行者通路上、 架空線が近接、 風速が上昇傾向、である。最も適切な対応はどれか。

ア．歩行者に声を掛けながら通行させ、吊荷の下を短時間だけ通ってもらう。

イ．機器重量が3t未満なので、作業半径や架空線は確認しなくてよい。

ウ．吊上げ能力・作業半径を確認した作業計画を作成し、歩行者立入を排除し、架空線との安全距離を確保し、風の状況が安全条件を満たすときだけ作業する。

エ．風速が上昇しても納期優先で作業を継続する。

答え・解説

正答：ウ

ア：吊荷下への第三者立入は避けるべきである。

イ：重量だけで安全性は決まらず、機械能力・周囲条件を確認する。

ウ：揚重は機械能力、第三者、架空線、気象の全条件を満たす必要がある。

エ：気象条件が安全限界を超えるおそれがある場合は作業を中止・延期する。

総合解説：条件が複数ある揚重作業では、一つの対策だけでなく、機械・人・周辺環境・気象を同時に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136

複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

屋外配管の掘削予定箇所、既設図には電力管が記載されているが、現地の正確な位置が不明である。条件は 掘削深さ1.2m、 機械掘削予定、 供用中の電力管、である。最も適切な対応はどれか。

ア．既設図の線を信用し、現地確認せずに機械掘削する。

イ．電力管は地中なので、配管工事の安全管理対象外とする。

ウ．掘削後に電力管が見つかった時点で初めて管理者へ連絡する。

エ．管理者資料や探査・試掘等で位置を確認し、近接部の掘削方法・監視・防護を定めてから機械掘削を進める。

答え・解説

正答：エ

ア：図面と現況が一致しない可能性がある。

イ：損傷すれば感電・停電・公衆災害につながる。

ウ：着手前に位置と施工条件を確認することが重要である。

エ：供用中の地下埋設物に近接する場合は、位置を確認せず機械掘削を開始してはならない。

総合解説：地下埋設物は「図面確認→現地特定→近接施工方法決定」の順でリスクを下げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

配管支持間隔の一部が規定値を超過した。条件は 天井閉鎖前、 追加支持可能、 他設備との干渉あり、 検査記録を残す必要あり、である。最も適切な対応はどれか。

ア．不適合箇所を特定し、干渉を確認して追加支持等の是正方法を決め、是正後に再測定・記録してから天井を閉じる。

イ．天井を先に閉じ、完成後に問題が出た場合だけ対応する。

ウ．規定値超過の測定値を平均値に置き換えて合格扱いにする。

エ．他設備と干渉するので、支持を追加せず規定値を無視する。

答え・解説 正答：ア

ア：不適合は原因・影響を確認し、適切に是正して再確認した証拠を残す必要がある。

イ：隠蔽前に是正できるため、先送りすべきではない。

ウ：測定記録を改変して不適合を隠してはならない。

エ：干渉を考慮した別の是正方法を検討する必要がある。

総合解説：条件整理では、不適合、施工可能時期、干渉、記録という条件をすべて満たす是正案を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

既設建物内で配管溶接を行う。条件は 近くに可燃物、 火災報知設備作動中、 他職種が同時作業、 施工時間は短い、である。最も適切な対応はどれか。

ア．10分程度の作業なら可燃物養生を省略する。

イ．可燃物の除去・養生、火花飛散防止、監視・消火準備、他職種との区画・連絡、必要な火気使用手順を整えたうえで作業する。

ウ．火災報知設備を無断で停止し、作業終了後に戻す。

エ．他職種が近くにいても、各自が注意すれば区画や連絡は不要である。

答え・解説 正答：イ

ア：作業時間が短いことは火災危険をなくさない。

イ：短時間作業でも火災リスクは変わらず、可燃物・火花・監視・他職種との干渉を管理する必要がある。

ウ：設備停止は所定の管理・連絡手順を経て行うべきである。

エ：同時作業では火花・煙・避難への影響を調整する必要がある。

総合解説：火気作業は「着火源、可燃物、監視、消火、周辺作業」の条件をセットで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

地下機械室の改修で既設排水系統を一時停止する。条件は 床排水が必要、 工事中も漏水リスクあり、 濁水を直接公共排水へ流せない、 停電時も浸水避けたい、である。最も適切な仮設計画はどれか。

ア．漏水が起きたときだけバケツで対応し、仮設排水は設けない。

イ．濁水も量が少なければ未処理で公共排水へ流す。

ウ．仮設集水・排水経路を設け、必要な処理を行い、停電時の代替手段や監視を含めて浸水防止計画を立てる。

エ．電動ポンプ1台だけを設置し、停電時の対策は不要とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：発生水量や夜間対応を考えると計画的な仮設排水が必要である。

イ：排水条件や環境管理基準を確認し、必要な処理を行う。

ウ：排水停止中も発生水を安全に集め、処理し、停電時にも浸水しないよう冗長性を持たせる。

エ：停電時も浸水を避けるという条件を満たさない。

総合解説：仮設設備は通常時だけでなく、故障・停電など異常時のバックアップまで条件整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140 複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

工期を3日短縮する必要が生じた。条件は 圧力試験は省略不可、 夜間作業は不可、 作業員増員は可能、 機器納入日は変更不可、である。最も適切な短縮策はどれか。

ア．圧力試験を省略して3日短縮する。

イ．夜間作業を追加して短縮する。

ウ．機器納入を3日前倒ししたものととして工程表だけ変更する。

エ．機器納入前に可能な配管・支持・配線調整等を前倒しし、作業干渉を確認して増員・並行作業を行い、試験工程は確保する。

答え・解説 正答：エ

ア：省略不可という条件に反する。

イ：夜間作業不可という条件に反する。

ウ：納入日は変更不可であり、実現不能な工程表になる。

エ：変更できない条件を固定し、前倒し可能作業と資源追加によってクリティカルな工程を短縮する。

総合解説：条件整理型の工程問題は「変えられない条件」を先に固定し、変更可能な資源・順序を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

公共管工事で新たに一次下請を追加する。条件は 施工開始は来週、 施工体制台帳作成対象、 新下請の主任技術者資格確認が未了、 施工図変更も伴う、である。最も適切な対応はどれか。

ア．下請契約・技術者要件を確認して施工体制台帳等を更新し、施工図変更について必要な協議・承諾を完了してから施工開始させる。

イ．工期優先で施工を始め、資格確認と施工図変更は竣工時にまとめる。

ウ．施工体制台帳だけ更新すれば、施工図変更の協議は不要である。

エ．施工図だけ承認されれば、下請技術者の要件確認は不要である。

答え・解説 正答：ア

ア：施工体制と設計変更の二つの手続を並行して整え、資格未確認・未承認のまま施工させない。
イ：施工中の適正な体制・設計整合を確保できない。
ウ：施工体制と設計変更は別の管理事項である。
エ：下請業者の適正な技術者配置も確認する必要がある。
総合解説：複合条件では、法規手続と品質・設計手続を一方だけ満たして完成としない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

給水管の圧力試験中に継手から漏れを確認したが、翌朝には断水復旧が必要で工程に余裕がない。現場責任者の判断として最も適切なものはどれか。

ア．漏れが少量なら、そのまま復旧して引渡し後に直す。

イ．漏れ箇所を特定して原因に応じて是正し、必要な再試験で適合を確認したうえで復旧する。工程影響は関係者へ共有し代替策を検討する。

ウ．試験記録から漏れの記載を削除して合格扱いにする。

エ．工程遅延を避けるため、圧力を下げて再試験し合格とする。

答え・解説 正答：イ

ア：供用後の漏水事故につながるため、適合確認前に復旧すべきではない。
イ：工程が厳しくても不適合を残したまま供用せず、品質是正と工程調整を同時に行う。
ウ：記録改変は品質管理上不適切である。
エ：定められた試験条件を勝手に変更して合格扱いにできない。
総合解説：現場総合判断では、品質・工程・説明責任を同時に扱い、工程優先で品質基準を下げない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

揚重中のブームが架空線へ想定以上に接近するニアミスが発生した。接触事故は起きていない。最も適切な初動はどれか。

- ア．接触していないので、そのまま同じ手順で作業を続ける。
- イ．オペレータだけを注意し、作業計画は変更しない。
- ウ．作業を中止し、接近原因・作業計画・合図・監視・安全距離を再確認し、必要な防護・誘導等の対策を実施してから再開する。
- エ．納期が遅れるため、架空線側の確認をせず夜間に再開する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：結果的に無事故だっただけで、危険条件は残っている。
 - イ：個人注意だけでなく、計画・監視・防護等の仕組みを見直す必要がある。
 - ウ：ニアミスは重大事故の前兆であり、作業を継続せず原因と管理方法を見直す必要がある。
 - エ：危険源を確認・低減せず再開してはならない。
- 総合解説：ニアミスでは、個人の不注意で終わらず、計画・設備・監視・連絡の管理要因まで分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

主要空調機の納入が5日遅れることになり、その据付はクリティカルな工程上にある。試運転期間は短縮できない。最も適切な対応はどれか。

- ア．試運転を5日短縮して当初竣工日に合わせる。
- イ．納入遅延を工程表に記載せず、現場だけで吸収する。
- ウ．空調機到着まで全作業を停止する。
- エ．納入遅延の影響を工程ネットワークで確認し、前倒し可能な周辺工事や作業順序を再編し、必要な資源投入・関係者協議を行って試運転期間を確保する。

答え・解説 正答：エ

- ア：試運転期間は短縮不可という条件に反する。
 - イ：影響が見える化し、関係者と調整する必要がある。
 - ウ：周辺で前倒し可能な作業を検討せず停止するのは合理的でない。
 - エ：変更できない試運転期間を守りながら、納入前後の作業順序と資源を調整して全体遅延を最小化する。
- 総合解説：工程遅延では、固定条件と可変条件を分け、クリティカルパスへの影響を最小化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

改修工事で天井を開けたところ、既設配管の位置が設計図と大きく異なり、新設ダクトと干渉することが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．現況を測定・記録し、必要な性能・保守空間を確認したうえで監督職員等とルート変更を協議し、承諾後に施工図へ反映する。
- イ．作業員が現場で空いている場所へ自由に配管を移す。
- ウ．設計図が正しいものとして、既設配管を無断撤去する。
- エ．干渉部分だけ無理に曲げて施工し、施工図は修正しない。

答え・解説 正答：ア

ア：現況相違は勝手に納めず、事実確認、技術検討、協議、図書反映の順で処理する。
イ：性能や保守性、設計意図への影響を確認せず変更してはならない。
ウ：既設設備の使用状況や影響を確認する必要がある。
エ：圧力損失や支持、保守性の問題を生じ、完成図書とも不整合になる。
総合解説：改修工事では既設図と現況の差を前提に、現地確認と正式な変更管理を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

給水管更新後、圧力試験は合格したが、復旧直後の水に濁りが確認された。利用者から早期使用開始を求められている。最も適切な対応はどれか。

- ア．圧力試験が合格なら水質に関係なく使用開始する。
- イ．給水を直ちに通常使用させず、原因を確認して必要な洗浄・フラッシング等を行い、水質・外観等の必要確認後に供用する。
- ウ．濁りは利用者が蛇口を開ければ自然に解消するので説明不要である。
- エ．水質の記録を取らず、苦情が出たときだけ対応する。

答え・解説 正答：イ

ア：圧力試験は配管の耐圧・漏れ確認であり、水質安全を保証する試験ではない。
イ：耐圧上の合格と衛生上の供用可否は別であり、濁りがある状態で使用開始させない。
ウ：原因と安全性を確認し、管理下で洗浄・確認する必要がある。
エ：供用前に必要な品質確認を行うべきである。
総合解説：設備の品質は一つの試験だけで決めず、耐圧、機能、衛生など目的ごとに確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

工事中に一次下請会社が経営上の理由で撤退し、別会社へ切り替える必要が生じた。最も適切な対応はどれか。

- ア．新会社の作業員が確保できれば、契約や技術者確認前に施工を継続する。
- イ．施工体制台帳だけ会社名を変更し、途中施工の品質記録は旧会社へ返却する。
- ウ．新下請の許可・技術者・施工能力等を確認し、契約と施工体制台帳・施工体系図を更新し、引継ぎ範囲・品質記録・工程影響を整理してから施工を再開する。
- エ．工程影響を避けるため、旧会社の作業員名をそのまま新会社の名簿へ転記する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：適正な施工体制の確認なしに施工させるべきではない。
 - イ：品質記録は工事全体の継続管理に必要である。
 - ウ：会社変更は法規上の施工体制だけでなく、途中施工の品質責任・工程・記録引継ぎまで管理する必要がある。
 - エ：実際の雇用・所属・資格と一致しない記録は不適切である。
- 総合解説：下請変更は「適格性確認・契約・施工体制・品質引継ぎ・工程再編」を一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

屋外配管掘削中に強い降雨が始まり、掘削底へ水が流入し、法面の一部に崩れの兆候が見られる。最も適切な対応はどれか。

- ア．排水ポンプを増設しながら、掘削作業は継続する。
- イ．作業員を増員して雨が強くなる前に掘削を終える。
- ウ．法面に亀裂があっても、配管敷設後に埋戻せば問題ない。
- エ．作業員を安全な場所へ退避させて掘削作業を中止し、排水・土止め・法面・周辺地盤を点検し、安全を確認して必要な補強後に再開する。

答え・解説

正答：エ

- ア：崩壊兆候があるため、まず作業員を危険区域から退避させる必要がある。
 - イ：増員では地盤崩壊リスクを低減できない。
 - ウ：崩壊のおそれがある状態で作業を継続してはならない。
 - エ：崩壊兆候がある状況では工程より人命を優先し、作業中止・退避・点検・補強を行う。
- 総合解説：異常気象時は、作業継続の可否を安全側で判断し、退避・点検・復旧手順まで考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

ポンプの総合試運転で設計流量は満足したが、定常的な異常振動と配管支持部の揺れが確認された。引渡し日が迫っている。最も適切な判断はどれか。

ア．性能値だけで合格とせず、芯出し、基礎固定、配管支持・荷重等を点検して原因を是正し、再試運転で振動と性能を確認する。

イ．流量が出ているので異常振動は許容し、そのまま引渡す。

ウ．振動記録を削除し、正常な流量記録だけを提出する。

エ．支持部の揺れを作業員が手で押さえて再測定する。

答え・解説 正答：ア

ア：異常振動を残すと故障や配管損傷につながる。機能・耐久性・安全性を含めて適合を確認する必要がある。

イ：設計性能の一項目だけ満たしても、異常状態を残してよいことにはならない。

ウ：不都合な記録を削除するのは品質管理上不適切である。

エ：一時的に現象を隠すのではなく原因を除去する必要がある。

総合解説：試運転の合否は、設計能力だけでなく異常振動・漏れ・温度など健全性も含めて判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

設備は正常に運転しているが、圧力試験記録の一部と、施工中に変更した配管ルート of 完成図反映が未了である。引渡し予定日は当日である。最も適切な対応はどれか。

ア．設備が動くため、記録や完成図は不要として引渡す。

イ．不足記録の事実を確認し、必要な試験記録・変更図書を整備して実施工と一致させ、所定の確認を経て引渡す。

ウ．未記録の試験結果を推定値で作成して提出する。

エ．変更した配管ルートは現場を見れば分かるので、完成図は当初図のままにする。

答え・解説 正答：イ

ア：試験記録や完成図書は品質確認・維持管理に必要である。

イ：設備が動くことと、工事品質の証拠・維持管理情報が揃っていることの両方が完成には重要である。

ウ：確認していない結果を推定で記録してはならない。

エ：完成図は実施工を反映し、将来の保守・改修に使える状態にする。

総合解説：引渡し判断では、機能、品質証拠、完成図書、未処理事項を総合して完成状態を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21